文部科学省
平成 23 年度教育研修活動補助事業

「専修学校におけるキャリア教育技法に関する調査研究」

報告書

平成 24 年 3 月
財団法人 専修学校教育振興会

はじめに

財団法人専修学校教育振興会では、平成 17 年度より、専修学校におけるキャリア・サポート＜学生が自分自身のキャリア（仕事人生）を主体的に設計・選択・決定できるように支援すること＞を推進するために、教職員が有すべきマインドやスキルを養成するキャリア･サポーター養成講座（旧：CSM 講座）を実施して参りました。

講座は現在まで続き、受講いただいた先生方からお喜びの声を頂く一方、多くの方から「せっかく学んだマインドやスキルを学校教育の場で一層有効に活用するため、学生用の教材を開発して欲しい」というお声を頂戴いたしました。

そこで専修学校教育振興会では、平成 21 年度に文部科学省の補助を受け教材の研究開発を行い、平成 22 年 4 月に“チーム学習型キャリア教育ワークブック　やる気の根っこ”とその“教員用ガイド”を完成させました。

ワークブックは、平成 22 年度間に専門学校を中心として全国で約 1,500 冊が利用され、キャリア教育の普及と推進に一定の役割を果たしましたが、平成 22 年度の調査研究において、教員用ガイドをより利用しやすい内容に改定するともにキャリア教育技法の研究を深め、より多くの学校におけるキャリア教育の推進に繋げる必要があるという関係者からのご意見も頂戴いたしました。

そこで、財団法人専修学校教育振興会では文部科学省の平成 23 年度教育研修活動補助事業として「専修学校におけるキャリア教育に関する教育技法」および「平成 21 年度開発の学生向けキャリア教育教材・教員用ガイドの改訂」等について調査研究を行い、調査研究の経過を専修学校教員研究協議会事業「キャリア教育技法研修会」の執行に活用するとともに、専修学校における今後のキャリア教育推進に資することといたしました。

本書は、その経過と結果を中心にまとめた報告書で、後半には、改定した教員用ガイドを部分掲載しております。

最後になりましたが、専修学校教員研究協議会事業「キャリア教育技法研修会」のアンケート調査にご協力くださった全国の専門学校の皆様に深く感謝の意を表しますとともに、この調査研究報告書が専修学校生のキャリア教育の内容の改善・充実に資することを願います。

平成 24 年 3 月

財団法人 専修学校教育振興会

キャリア教育技法研究委員会

もくじ

はじめに

第１章　調査・研究の概要

１．調査・研究の趣旨 1

２．調査・研究の実施 1

第２章　教員用ガイドの改訂

１．平成 22 年度実態調査の結果 3

２．平成 23 年度調査研究 3

第３章　専修学校教員研究協議会事業「キャリア教育技法研修会」

－企画・立案、研修プログラム、受講者・会場設営、アンケート集計結果－

１．プログラムの企画・立案 6

２．研修プログラム 8

３．受講者・会場設営 11

４．受講者アンケートの集計結果 11

第４章　専修学校におけるキャリア教育の現状と今後の普及・推進、

他の高等教育機関におけるキャリア教育との比較

１．キャリア教育・職業教育の在り方について 20

２．大学と専門学校のキャリア教育 20

３．キャリア教育の今後の課題 21

第５章　モデル授業の実施と見学・研究

１．モデル授業の実施と見学・研究の趣旨 23

２．モデル授業の実施と見学・研究の企画・立案 23

３．モデル授業受講者アンケート調査結果 26

４．クラス担任より 29

５．教材の特徴と学生の反応 29

６．まとめ…… 30

第６章　教材サンプルの企画・作成

１．経緯…… 31

２．審議結果…… 31

３．研修会における試用版の活用と製品版の完成…… 31

第７章　委員会活動の総括 …… 32

参考資料　教員用ガイド第３版（部分・予定稿） …… 34

第１章　調査・研究の概要

１．調査・研究の趣旨

平成 23 年度、財団法人専修学校教育振興会（以下専教振）では、「専修学校におけるキャリア教育に関する教育技法」および「平成 21 年度開発の学生向けキャリア教育教材・教員用ガイドの改訂」等について調査研究を行い、以って専修学校における今後のキャリア教育推進に資することを研究課題として、文部科学省の教育研修活動補助を受けた専修学校教育内容等改善研究協力校事業「専修学校におけるキャリア教育に関する調査研究」を実施した。

調査研究は、専修学校の教育現場で行われているキャリア教育の技法等について行い、その経過は専修学校教員研究協議会事業の執行にも活用し、結果は「平成 21 年度開発の学生向けキャリア教育教材の教員用ガイド」改訂にも反映させた。

２．調査・研究の実施

調査研究の実施に当たっては、専修学校関係者を中心とした「キャリア教育技法研究委員会」を設置し、平成 23 年 4 月から平成 24 年 2 月にかけて全 7 回の委員会を開催した。

(1)　キャリア教育技法研究委員会

委 員 長　岡村　慎一（専門学校ＹＩＣグループ学院本部）
副委員長　財津　香壽子（ＩＬＰお茶の水医療福祉専門学校）
委　　員　浅輪　玲子（有限会社元庄屋浅輪）
〃　　大森　弘美（ケイセンビジネス公務員カレッジ）
〃　　上浦　　環（長野県公衆衛生専門学校）
〃　　神山　恵美子（帯広コア専門学校）
〃　　佐々木　卓美（日本電子専門学校）
〃　　西田　君美雄（office W-Planning）

(2)　キャリア教育技法研究委員会　開催日程・議題

回次	開催日		議　題
第 1 回	平成 23 年	5 月 10 日	委員紹介、委員長･副委員長選任、事業説明、事業の進め方、その他、次回日程
第 2 回		7 月 13 日	キャリア教育技法研修会の内容と運営、教員用ガイドの改訂、サンプル版教材及びガイド、モデル授業見学計画、その他
第 3 回		9 月 27 日	キャリア教育技法研修会の内容と運営、教員用ガイドの改訂、サンプル版教材及びガイド、授業見学、その他
第 4 回		11 月 8 日	キャリア教育技法研修会の内容と運営、教員用ガイドの改訂、サンプル版教材及びガイド、その他

第 5 回	平成 23 年	11 月 22 日	キャリア教育技法研修会の運営、教材サンプル、教員用ガイドの改訂、報告書の作成、その他
第 6 回		12 月 20 日	教員用ガイドの改訂、報告書の概要確認、その他
第 7 回	平成 24 年	2 月 7 日	教員用ガイドの最終確認、報告書の確認、その他

(3) 調査研究

① 教員用ガイドの改訂

平成 22 年度の調査研究結果を参考に、「より使いやすい内容」への改訂を目標とした調査研究を行い、その結果を教員用ガイド第 3 版として取りまとめた。

② 専修学校教員研究協議会事業「キャリア教育技法研修会」の企画・立案・実施

平成 23 年 11・12 月に東京・大阪で開催した「キャリア教育技法研究委員会」のプログラムを企画・立案し、委員自らが講師として講演した。

③ モデル授業の実施と見学・研究

ワークブック及び教員用ガイドの完成度を確認し、その結果を教員用ガイドの改訂とキャリア教育技法研修会における講演に活用するため、委員会が企画したモデル授業を委員の所属校の協力を得て実施し、その様子を委員会にて見学した。

④ 教材サンプルの企画・作成

キャリア教育の実施に至っていない学校への提案資料として、また、キャリア教育技法の一方法を提案するために、キャリア教育ワークブック「やる気の根っこ」の一部とその教員用ガイドを掲載した教材サンプルの企画・作成を行った。

⑤ 調査研究報告書の作成・頒布

本調査研究の結果を周知し、専修学校におけるキャリア教育の普及・推進に資するため、報告書を作成し関係校に配布する。

第２章　教員用ガイドの改訂

１．平成 22 年度実態調査の結果

調査依頼校（調査時点までにワークブックを 10 冊以上購入した 23 校)、調査協力校（2 校）ともに少数であったが、教員用ガイドブックについては次のような一定の評価を得ることができた。

－文部科学省平成 22 年度教育研修活動補助事業「専修学校におけるキャリア教育に関する調査研究」報告書より抜粋－

・「時間配分や要点が記入してあり、使用しやすい」

・「教員の発言などの詳しい記載があり授業イメージがつかめてよい」

一方で次に下記のような意見もあり、実施前後の教員の不安も感じられた。

・「学生の自主的な発言により進めていく部分もあるが、ガイドの通りにはいかない面もあり、教員の指導力や力量に左右される」

・「語彙力や豊富な経験などが必要となってくる」

ガイド作成にあたっては、教員が「やってみよう」と一歩踏み出すことができるように教員の言葉の参考例も詳細に記載した。教員が事前にワークの流れ・目標を理解し、何を気づかせ、どのようなことを伝えるのかを把握しておくことが必要であるが、あらかじめ答えや結果を想定するのではなく、それぞれの経験を活かして、自らの言葉で伝えることや、学生自身に「気づかせる」ことの大切さを改めて伝えていきたいと考える。

２．平成 23 年度調査研究

平成 23 年度キャリ教育技法研究委員会（以下、「委員会」という。）では、平成 22 年度の調査結果を参考に、全 7 回の委員会において教員用ガイド改訂に関する調査研究を行い、その結果を反映させた教員用ガイド第 3 版を取りまとめた。

委員会の回次毎に示された主な方針・課題は次の通り。

なお、教員用ガイド第 3 版は、本書の第 6 章に掲載。

第 1 回委員会

① 見易さ・読み易さ等ビジュアル面の配慮、パワーポイント教材等の活用。

② 教員向け使用上のポイント、エッセンスの抽出。

③ 70 分の時間設定（90 分授業において、最初と最後の各 10 分は振り返り等の時間に充てられる)。

④ 教材全体像について流れを明示。

⑤ 単元ごとの目的・狙いとゴール・効果、学生の能力目標が分かるように明示。

⑥ 評価基準の必要性の有無について検討。

⑦ キャリア・サポーター養成講座に未参加の教職員が使用する場合の、教職員のキャリ

ア観の養成。

第 2 回委員会

① 新しい書式を A4 横とする。神山委員が 9 月半ばまでに一部ひな型を提示し、委員全員が確認後、分担を決めて、2 月までに全章を改訂する。

② 教員用ガイドの冒頭で、「やる気の根っこ」第 1～4 章の流れ(全体構成と各章の目標の連鎖)を示す。

③ 各節ごとに、初めに「授業の流れ」をフローチャートで示す。

④ 現状の「各節ごとの指導目標」を精査し、「狙いや目的、期待される効果(社会人基礎力のなかのキーワード等を活用)」を盛り込む。

⑤ 1 頁のなかで、左:「簡易編の解説」と右:「詳細編の解説(スクリプトを含む)」を対照できるような構成にする。

⑥ 全章にわたる共通事項の表記方法を統一する。使用頻度の多い用語(「グループワーク」「セルフワーク」等)は、記号化する。

⑦ 「留意事項 3 点に関するシート(①セルフワークを始める前に、②グループワークを始める前に、③ワークの振り返りを始める前に)」(グランドルール/ジェネラルインストラクション)を教員用ガイドに設けて、各セッションの冒頭で「必要に応じて○○ページ参照」と明示し、教員の喚起を促す。

⑧ 「困ったときの Q&A」(仮題)を教員用ガイドに設けて、今後、利用教員の実践例や意見等を蓄積・反映していく(例:「セルフワークでシートになかなか書けない学生がいたら、どう声かけするか?」等)。

第 3 回委員会

① 新しい書式(A4 横)をエクセル(2003)で作成する。節単位でシートを分ける。ひな型確定後、分担を決めて、2 月までに全章を改訂する。

② 教員用ガイドの冒頭で、「やる気の根っこ」第 1～4 章の流れ(全体構成と各章の目標の連鎖)を示す。

③ 各節ごとに、初めに「授業の流れ」をフローチャートで示す。

④ 現状の「各節ごとの指導目標」を精査し、「狙いや目的、期待される効果(社会人基礎力のなかのキーワード等を活用)」を盛り込む。

⑤ 1 頁のなかで、左:「簡易編の解説」と右:「詳細編の解説(スクリプトを含む)」を対照できるような構成にする。

⑥ 全章にわたる共通事項の表記方法を統一する。使用頻度の多い用語(「グループワーク」「セルフワーク」等)は、記号化する。

⑦ 「留意事項 3 点に関するシート(①セルフワークを始める前に、②グループワークを始める前に、③ワークの振り返りを始める前に)」(グランドルール/ジェネラルインストラクション)を教員用ガイドに設けて、各セッションの冒頭で「必要に応じて○○ペー

ジ参照」と明示し、教員の喚起を促す。

⑧ 「困ったときの Q&A」(仮題)を教員用ガイドに設けて、今後、利用教員の実践例や意見等を蓄積・反映していく(例:「セルフワークでシートになかなか書けない学生がいたら、どう声かけするか?」等)。

第 4 回委員会

① 委員は、従来の A4 縦のワードファイル上でテキストデータを修正する。

② 各章各節ごとに、「修正作成担当委員」と「修正確認担当委員」が合意のもと、12 月 20 日までにワード文章を完成させる。

③ その後、編集会社にワードデータを渡し、新しいファイル形式 (A4 横エクセル(2003)) への変更を含めて編集してもらう。

④ 1 月 25 日までに編集作業を完成してもらい、事前にデータをアップして頂き、各委員が確認の上、最終委員会(1 月下旬～2 月上旬)で承認することを目標とする。

第 5 回委員会

① 表中の編集作業を行い易くするため、利用ソフトをワード 2003 に変更する。

第 6 回委員会

① ガイド中の図表は、原則として原型（A4 縦型）のままでいく。

② フォントサイズは、教材サンプルの実寸程度のサイズを使用する（程度＝エクセルの埋め込み、PDF 化を行っているため、ワード原稿の原寸とは異なる)。

③ 各ページの「教員用ガイド」という標記→各ワーク名に変更する。

④ フッターの「教員_」を削除する。

⑤ 各ページのヘッダに「やる気の根っこ 教員用ガイド」を追加する。

⑥ 「授業の展開（表)」のヘッダは、左から「フロー図」「学習内容および手順」「教員の発問および留意点」「形態」に統一する。

⑦ 「授業の展開（表)」中の横罫線（区切りレベル）は、教材サンプルの区切りレベルを参考とする。

⑧ 「授業の展開」の「教員の発問および留意点」は、ワークブックの何ページをやっているのかが分かるよう、ワークブックのページ番号を入れる。

⑨ 「教員の発問および留意点」では、教員の発問部分は「ゴシック・ですます調」に統一。その他の部分は「明朝・である調」に統一する。

第 7 回委員会

① 委員は、編集済みのファイルを確認し、必要に応じた修正 2 月 15 日までに行う。

② 3 月 1 日を目処に、インターネット上に第 3 版を公開し、利用校に周知する。

第３章　専修学校教員研究協議会事業「キャリア教育技法研修会」
－企画・立案、研修プログラム、受講者・会場設営、アンケート集計結果－

１．プログラムの企画・立案

委員会では、調査研究を「キャリア教育技法研修会」に活用するため、審議の中で研修会のプログラムを企画・立案し、委員自らが講師として講演した。

研修会が実施されるまでの委員会で示された主な方針・課題は次の通り。

第１回委員会

① 財団法人専修学校教育振興会の事業計画・予算計画を元に、開催時期は９月～11 月頃、会場は東京と大阪、開催時間は午後半日とする。

② 「なぜキャリア教育が必要なのか？」の前提について、参加者の共通認識を促すことが重要。

③ 研修参加によって、各参加者の多様なニーズや悩み・課題・問題が解決・解消されるように、参加者が意見・情報を出し合えるグループディスカッションの時間を設けることが必要。

④ ワークの体験のみならず、キャリア教育の導入成功事例の発表を盛り込むのが良い。

⑤ 第２回委員会までに、各委員がグループメールにて研修内容案を提案する。

第２回委員会

① 日程・会場の確定

・東京＝11 月 22 日(火)　13:00～17:00　東京ガーデンパレス

・大阪＝12 月 １日(木)　13:00～17:00　大阪ガーデンパレス

② 各委員が提案したプログラム案を検討

第３回委員会

① プログラムの検討

13:00～13:40(40 分)　講演「専修学校におけるキャリア教育の現状と今後の普及・推進、他の高等教育機関におけるキャリア教育との比較」(岡村委員長)

※参加者の名刺交換の時間を含む。

13:40～14:20(40 分)　「キャリア教育におけるモデル講座実践の報告」（佐々木委員)

※モデル講座の紹介ビデオを上映(講座前・中・後の学生の

様子の変化等)

14:20～14:35(15 分)　休憩

14:35～15:45(70 分)　「やる気の根っこ」の体験講座(東京:大森委員、大阪:上浦委員)

14:35～14:45(10 分)説明

14:45～15:35(50 分)講座

15:35～15:45(10 分)振り返り

※「やる気の根っこ」全体の流れを説明。

※短時間のアイスブレイクの後、グループワークの体験として「過去を振り返ろう!」(第 2 章第 1 節　8～9 ページ)を実施。

※グループは 6 人 1 組で構成。時間管理はグループに委ねる。講師からは経過時間　を伝える。

※ライフラインの描き方を例示。

※体験後の振り返りを含む(学生の視点で振り返って頂く)。

※他の委員がサポート。

15:45～15:55(10 分)　移動

16:00～16:45(45 分)　テーマ別グループディスカッション

※参加申込書のアンケートによりグループ分け。

※各校でのキャリア教育の取組状況等(①未着手/②着手して間もない/③先進的)に応じて意見交換。

※委員の担当役割は、申込人数確定後に再検討。

16:45～16:55(10 分)　全体シェアリング(岡村委員長まとめ)

※全体シェアリング、質疑応答。

② 参加者増に向けて、キャリア・サポーターに対して「日本電子専門学校におけるモデル講座の報告を含む研修内容であること、校内の教職員に参加を呼び掛けて頂きたいこと、特に担任業務を持つ方々に広く参加頂きたいこと」を案内する。

③ 参加者の属性に関する状況を把握するため、参加者アンケートに本人の所属部署記入欄を設ける。

第 4 回委員会

① 座席は、研修会冒頭(13:00)より参加申込書の選択テーマに基づきグループ分け(6 人 1 組を基本とする)。当日、希望テーマの変更に伴うグループの移動も若干名想定され得る。

② プログラムの詳細確認

・講演「専修学校におけるキャリア教育の現状と今後の普及・推進、他の高等教育機関におけるキャリア教育との比較」(岡村委員長)

※参加者の名刺交換の時間を含む。

※各校でキャリア教育に充てる授業時間の工夫等に関する提案を含む。

・「キャリア教育におけるモデル講座実践の報告」 (佐々木委員)

※モデル講座の紹介ビデオを上映(講座前・中・後の学生の様子の変化等)。

※研修参加教員の関心が「モデル講座の内容」に集まるように説明内容のバランスを調整。

・「やる気の根っこ」の体験講座(東京:大森委員、大阪:上浦委員)

※「やる気の根っこ」全体の流れを説明。

※短時間のアイスブレイクの後、チーム学習の体験として「過去を振り返ろう!」(第 2 章第 1 節　8～9 ページ)を実施。

※各 1 冊配布する「やる気の根っこ」本体とは別に、8～9 ページに相当する「教材サンプルの拡大コピー」を配布する。

※教員用ガイドは、ワーク体験後に配布する。

※時間管理はグループに委ねる。講師からは経過時間を伝える。

※ライフラインの描き方を例示。

※体験後の振り返りを含む(学生の視点で振り返って頂く)。

※他の委員がサポート。

・テーマ別グループディスカッション

※(5 分)インストラクション

※グループ内で意見交換

※全体シェアリング…グループで出た意見の発表

※各校でのキャリア教育の取組状況等(①未着手/②着手して間もない/③先進的)に応じて意見交換。

※担当委員は、テーマ①⇒岡村委員長、テーマ②⇒上浦委員、テーマ③⇒神山委員を各リーダーとする。他の委員の担当役割は、申込人数確定後に再検討。

※課題提示のための質問用紙を配布。用紙原稿は神山委員が作成。

・全体まとめ、アンケート記入

※アンケート項目には、「研修プログラム毎の感想(選択式)」「ワーク体験後の感想(選択式+自由記述)」を加筆。また、参加者の所属部署記入欄を追加。

２． 研修プログラム

各会場の研修プログラムは次の通り。

（1）東京会場

開　催　日：東京：平成２３年１１月２２日（火）

会　　場：東京：東京ガーデンパレス

主　　催：（財）専修学校教育振興会

時　間	内　容　・　講　師（敬称略）
12:30	（受　　付）
13:00～14:30	(1) 専修学校におけるキャリア教育の現状と今後の普及・推進、 他の高等教育機関におけるキャリア教育との比較 (財)専教振 キャリア教育技法研究委員会　委員長　岡村　慎一 (2) キャリア教育におけるモデル講座実践の報告　同委員　佐々木　卓美
14:30～14:45	（休　　憩）
14:45～17:00	(3) キャリア教育体験講座、グループワーク、シェアリング 同委員　大森　弘美 (4) テーマ別シェアリング　同委員長　岡村　慎一 ↓　同副委員長　財津　香壽子 同委員　浅輪　玲子 同委員　大森　弘美 同委員　上浦　環 同委員　神山　恵美子 同委員　佐々木　卓美 同委員　西田　君美雄 テーマ１．基調講演を受けての質疑応答 キャリア教育をカリキュラムに導入していないが、今後、導入を考えている学校の教職員 テーマ２．キャリア教育導入についての情報交換 キャリア教育をカリキュラムに導入しているが、方法や効果測定についてまだ模索中の学校の教職員 テーマ３．キャリア・サポーターの情報交換 (財)専教振のキャリア・サポーター養成講座を受講し「キャリアに関する教育」の推進や実際の講座を担当しているが、指導面での工夫などについて、他校の現状や取組みについて知りたい学校の教職員
17:00	閉　　会

（２）大阪会場

開　催　日：大阪：平成２３年１２月１日（木）

会　　場：大阪：大阪ガーデンパレス

主　　催：(財) 専修学校教育振興会

時　間	内　容　・　講　師（敬称略）
12:30	（受　　付）
13:00～14:30	(3) 専修学校におけるキャリア教育の現状と今後の普及・推進、 他の高等教育機関におけるキャリア教育との比較 (財)専教振 キャリア教育技法研究委員会　委員長　岡村　慎一 (4) キャリア教育におけるモデル講座実践の報告　同委員　佐々木　卓美
14:30～14:45	（休　　憩）
14:45～17:00	(3) キャリア教育体験講座、グループワーク、シェアリング 同委員　上浦　　環 (4) テーマ別シェアリング　同委員長　岡村　慎一 ↓ 同委員　浅輪　玲子 同委員　上浦　　環 同委員　神山　恵美子 同委員　佐々木　卓美 テーマ１．基調講演を受けての質疑応答 キャリア教育をカリキュラムに導入していないが、今後、導入を考えている学校の教職員 テーマ２．キャリア教育導入についての情報交換 キャリア教育をカリキュラムに導入しているが、方法や効果測定についてまだ模索中の学校の教職員 テーマ３．キャリア・サポーターの情報交換 (財)専教振のキャリア・サポーター養成講座を受講し「キャリアに関する教育」の推進や実際の講座を担当しているが、指導面での工夫などについて、他校の現状や取組みについて知りたい学校の教職員
17:00	閉　　会

３．受講者・会場設営

専修学校教育振興会では、9 月 1 日に全国専修学校各種学校総連合会に加盟する専修学校約 2,100 校の理事長・校長宛てに開催案内を発送。東京会場に 50 名、大阪に 59 名の申しみがあった。

受講者が希望するグループ別シェアリングのテーマと会場ごとの人数は次の通り。受講者の希望テーマから、キャリア教育に対する参加者の現状を事前に概ね推察することができた。

なお、研修会場は、グループ別シェアリングの希望テーマを同じくする原則 6 名を 1 テーブルにするグループ形式として開催した。

テーマ番号	テーマ	想定する対象者	東京(人)	大阪(人)
1	基調講演を受けての質疑応答	キャリア教育をカリキュラムに導入していないが、今後、導入を考えている学校の教職員	23	35
2	キャリア教育導入についての情報交換	キャリア教育をカリキュラムに導入しているが、方法や効果測定についてまだ模索中の学校の教職員	17	13
3	キャリア･サポーターの情報交換	(財)専教振のキャリア・サポーター養成講座を受講し「キャリアに関する教育」の推進や実際の講座を担当しているが、指導面での工夫などについて、他校の現状や取組みについて知りたい学校の教職員	10	11

４．受講者アンケートの集計結果

研修会の各会場では、受講者アンケートを実施した。アンケートの評価、集計結果は次の通り。

(1) プログラム評価

① 本研修会についてのご感想・ご意見をお聞かせください。（自由記入）

東京会場

- 他校の例、他の先生の考えがきけて非常に良い。
- 大変参考になりました。
- はじめての参加で、どのようにキャリア教育の授業をしたらよいのかと思ってましたので、今日のキャリア教育技法研修会は大変参考になりました。今日の研修を活かし、今後授業にとりいれていきたいと考えています。
- とても参考になりました。
- 毎年、継続して行って頂けると助かります。
- 他の養成校の現状を知ることができ、参考になりました。
- 大変、有意義な研修でした。
- 有り難うございました。グループワークで他校の現状も聞くことができ、良かったです。授業の事例も、もう少し聞きたかったです。
- ２回めです。初回とは異なり、有効性を感じました。

- 大変勉強になり、課題が見えてきました。
- 私は現在キャリア教育を行っているため、今回の内容に新しさは感じませんでしたが、今後、取り入れる学校、教員には役立つのだと思います。「根っこ」はキャリア教育としてベースなので、高校レベルで使うのが better なのではないかと思う。
- 明日からの指導のヒントになりました。
- 非常に内容が濃く、学校の今後に反映させたいものでした。持ち帰り、全職員で共有したいと思います。
- キャリア教育とは何か、なぜそれが求められ、どう取り入れていくのがよいのか、講演を聞くだけではなく、体験やシェアリングを通して知ることができて、本当によかったです。ぜひ、キャリア・サポーター養成講座も受けてみたいと思います。
- もう少しテンポが速くてもよかったように思う。前もって、課題が出されていてもよかった。ちょっと長い。やっている側が楽しんでいる感じ。
- 資料にもう少しグラフィックデザインが必要だと思います。
- とても勉強になりました。他の教職員にも参加をすすめたいと思いました。今後もキャリア教育について、学んでいきたいと思います。ありがとうございました。
- 色々参考になりました。ありがとうございます。
- キャリア教育について少し道すじができた気がします。学校に戻り、情報を共有したいと思います。
- 専門性の高い専門学校におけるキャリア教育のあり方について意見を聞きたかった。
- キャリア教育の検証について考えておりましたので、ヒントをいろいろいただきました。またチャンスがあれば参加させていただきたいと存じます。
- キャリア・サポーター養成講座の振り返りとして有意義でした。
- とても勉強になりました。まずはサンプルで試してみたいと思います。
- 神山先生の授業が大変参考になりました。研修を通じて本校でのキャリア教育の方向性を明確にすることができました。ありがとうございました。
- 職員会議で何度かやる気の根っこの話が出ていたのですが、現物をしっかり見たことはなく、効果についてはやや疑問を持っていましたが、実際にやってみて、使ってみたいと思いました。
- ワークガイドの事例研究（分析）が良いと思う。
- 学校に戻り、情報を共有したいと思います。対する取組（大学・専門）の現状を知ることができました。
- 自身が広報担当のため、日本電子専門学校のモデル授業をみることができたことは参考になりました。
- 意見交換の時間をもう少しとれるとありがたかった。
- 「やる気の根っこ」の全体の流れ（例えば、ねらいや分類（？））をどう構成されている

かの説明があると全体像がわかったと思う。

- キャリア教育と職業教育が並行して、学生の成長に作用する（できる）必要を改めて感じた。どちらが進んでも、今の若者には適さないのでは。社会人基礎力の形成という点から。
- 同じ専門学校の先生、職員の方々と情報を共有でき、実りある時間となりました。就職指導とキャリア教育の似て非なる部分等への理解や映像による実践報告など貴重な時間を提供いただきありがとうございました。
- 職業教育とキャリア教育の違い、大学と専門学校とのキャリア教育実施状況の比較など、知識として知っておきたい情報を得られたのでよかったです。また、模擬授業は授業の進め方等、とても参考になりました。

大阪会場

- 本日はありがとうございました。キャリア教育の必要性を改めて感じることが出来ます。学生に身につけさせるには、キャリアワークと共に学校全体、教員の方向性も必要と感じました。日常の中の学校生活の中でのキャリアを育てることも大事だと思いました。
- キャリア・サポーターとしての実務がまだほとんどありませんので、とてもためになる内容でしたが、情報交換等がうまくできなかったため、勉強し、積極的に取り組んでいきたいと思いました。
- 漠然とした説明が多く、もう少し深く入った所の説明が欲しかった。講師からのこの時にはこうする様なアドバイスが有れば参考になると思う。
- 各学校の先生のキャリア支援に対する考えが聞けて大変ためになった。キャリア支援には先生の能力も非常に必要となるので、これからもっと自己研鑽していきたい。
- キャリア教育はやはり人間教育ということで、専門学校としての立場等も含めて参加をいたしました。他校様の現状について触れることができ、また、モデル講座の報告も聞き、たいへん有意義な内容だったかと思います。ありがとうございました。研修費用も安価で助かります。
- キャリア教育についての意図がより分かりました。
- 他校の方と交流ができ、有意義な時間をすごせました。ありがとうございました。
- キャリア教育は、人間教育に結び付くだけにイメージ的な部分が多く、担任個人に任せられている部分が多いだけに、今回の様な教材を提供して頂けるのは選択肢が増え、役に立ちました。同時に有効活用に向けては、まだまだ教員のレベルアップを行う必要があるかと思います。帰校後に再度検討してみたいと思います。
- 今回、最後のテーマ別シェアリングが充実していました。同じ講座を受講し、指導面について他校の話をお聞きし、大変参考になる部分がありました。指導の際に検討していけるものがあり、参加してよかったです。

- 意見交換を他学校の先生方とお話出来て良かった。同じ悩みを共有出来て良かった。
- 改めてどう実践に生かしていくかを考えさせられました。
- 前向きの試みで有難い。参考になった。ありがとうございました。
- 有意義な研修ありがとうございました。大変参考になりました。
- 他校の先生方の現状を知る事ができたのは良かった。ただ、どのように導入していくかは今後よく検討する必要はある。
- 様々な資料や情報の提供ありがとうございます。とても参考になりました。
- 事例を実際に見れたり、体験したりすることで、イメージがわき、よかった。ありがとうございました。
- 大変勉強になりました。たくさんの学びを持って帰れます。
- 他校の現状、課題等を聞くことが出来、大変勉強になりました。参加者は皆さんプロの方ばかり。このメンバーでワークを行うには、パートパートの時間が短すぎるように思います。
- 初参加ですが、次年度の参考になりました。
- 本会合において、どのようなプログラム・目的を持って実施されているかを勉強できて、大変参考になりました。
- 自校の現状を考えてもキャリア教育の必要性を強く感じます。
- キャリア教育と職業教育の違いが理解でき、キャリア教育の必要性を実感した。本校の現状に照らし合わせて、どのような形で導入できるかを検討していきたい。
- 本日は大変有意義な講演および事例紹介、ワークショップ等、ありがとうございました。キャリア教育というワードでの教育をもっと重視する必要があると思いました。
- 参考になった。明日から参考可能な点は、実施していきたい。
- キャリア教育の取り組み、課題等について、他校の現状や、今後の方向性を含め、意見交換出来、有意義でした。
- モデル講座のビデオ、とても参考になりました。
- 大変厳しい状態の学校教育において、育成を又自分探し、心魂、10%しか生まれてきて開花できないが open し、花開き実を結ばさせるに最敵の方法ではあるが…。手法、誰が授業時間の調整等。
- 他校の先生方との意見交換ができて、とても勉強になった。もっと意見交換、情報交換がしたかった。問題点が明確になり、今後のアイデアにつながった。
- 初めて参加させていただき、他の先生の意見等が聞けてよかった。グループ内でも腹を割った事も聞けた。
- キャリア教育を担当している方との情報交換を通じて、自分の考えている方向性に確信が持てた。
- 大変貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。シェアリングで

は、少し時間が足りず、「物足りない」という空気が流れていました。それも、皆さん、キャリア教育に対し、熱心に前向きに考えておられ、考えや意見があふれ出ているからだと思います。本当に共感できる時間でした。

- キャリア教育の必要性が良くわかりました。他学校の現状等、グループワークできて良かったです。学生の目的意識をもたせる前に導入したら良いと思いました。
- キャリア教育について、少し理解できたような気がします。取り入れるには多くの問題があるように思いますが、今後も勉強していきたいと思います。
- キャリア教育の必要性が以前よりも増して、実感できた研修だった。
- やる側がチームを組む、内側から体勢を整える事が大切。
- いろいろな先生方と意見交換できて良かったです。今後の学生指導の参考にしたいと思います。ありがとうございました。
- キャリア教育がどのようなものか理解することができました。
- 複数の講師によるテーマ毎に講演であり、体感でありという内容で色々な視点を持つことができました。できれば、2 日くらいの日程でもう少し時間をかけて受講できればと思いました。
- あくまでも地方から出てくる者の意見ですが、せっかく遠方から出てくるので、2～3 日間の研修会を組んでいただけると非常に嬉しく思います。半日の研修会では物足りないです。
- 貴重な体験をさせていただきました。もっと勉強していかねばという思いを強くしました。
- 楽しく参加させて頂きました。キャリアアップ教育には、教職員のスキルの必要性を感じましたが、今日学んだ技術は本校でも実践してみます。
- 勉強になった。キャリア教育の目的が少しは理解できたと思う。職業教育と合わせて今後考えたい。ありがとうございました。
- 今回の研修を通して、各学校での取り組みや、それぞれが抱えている課題等を共有する事が出来、自校に帰って役立てていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 少し「やる気の根っこ」の宣伝が多い。効果性、仮定性を提示して、意見を集約していく必要がある。各専門学校の教員間の交流はとても役に立った。
- 職業教育、キャリア教育についての住み分け、大変参考になりました。ありがとうございました。

② 各プログラム毎の感想について、該当する番号に〇印を付けてください。

＜＊とても役に立った⇒4、まあまあ役に立った⇒３、あまり役に立たない⇒２、全く役に立たない⇒１＞

プログラム名	東京会場	大阪会場
① キャリア教育に関する基調講演	3.5	3.4
② 専門学校生を対象にしたモデル講座の実践報告	3.6	3.5
③ チーム学習型キャリア教育体験講座	3.3	3.5
④ 3つのテーマ別に行ったシェアリング	3.5	3.6

③ チーム学習型キャリア教育体験講座「第2章 第1節 過去を振り返ろう!」を体験されてみて、いかがでしたか？該当する番号に〇印を付けてください。

＜＊強くそう思う⇒4、そう思う⇒3、あまりそう思わない⇒2、全くそう思わない⇒1＞

感　想	東京会場	大阪会場
① 教員自らがまず実際に体験したことは有意義だった	3.6	3.6
② チーム学習という授業技法を、自校での授業実践にも取り入れてみたいと思った	3.6	3.5
③ 学生が自らのキャリアを考える上で、有効なワークだと思う	3.5	3.3
④ このワークを自校の学生を対象に実施してみたいと思った	3.4	3.2
⑤ 付属の「教員用ガイド」を参照すれば、自分でも授業の進め方を組み立てられると思う	3.2	3.1

「過去を振り返ろう!」体験に関する自由コメント

東京会場

- 自分も生徒も楽しいと感じる。
- 体験してみて、改めて思うことも多く、大変勉強になり良かった。
- まずは基本だと思っています。(自分を知るうえで)
- 振り返りの授業は学生に実施しているが、自分がやってみて過去を思い出すことができ、有意義でした。
- 片親、家庭に問題がある学生が多く、精神的に問題や、トラウマを持っている学生が多い中、十分な配慮が必要。
- 自己分析としては、よく出来ていると思う。
- 必要と思います。
- 仕事についてだけではなく、自分の人生をどうしていきたいか、自分の人生設計の中で仕事はどうするかを考えることができ、大変有意義であると感じました。
- 学生とは違い、既に講師と同等かそれ以上のキャリアを積んだ人間を相手にしては、方法

論に違和感を感じてしまいましたが、理解はできます。

- 学生に指導する機会は多いですが、自分が体験する機会はなかなかないので貴重な時間となりました。
- もう少し時間が欲しかったです。別の授業体験も含めて、１日研修で参加してみたいと思いました。
- 気持ちが普通の時期は意外と記憶に残っていないと感じました。
- 自己理解を深めるには良いと思う。
- 19、20 才の学生がどれだけライフイベントがあるだろうか、いじめを経験している学生もすくなくないため、振り返りだけで終わりにしない未来への足掛かりになれば、とても有効だと思います。
- 不登校歴や摂食障害の学生もおり、過去のネガティブな経験を吐露させるのに不安がある。
- 以前、学生に実施したとき、マイナス側ばかりになる者いた。その逆もいた。もともと本人の成育環境からマイナス思考になりすぎる学生もおり、適切な効果が得られないケースもある。
- 短い時間でしたが自らが体験することは非常に重要であると再認識することが出来ました。資料によく目を通し、今後の導入に向けて動きたいと考えています。
- 社会人が行うには時間が短過ぎて、また時間配分が延長延長で上手くいっていなかったと思います。初対面の方達に対して、自己開示するのにもやや抵抗がありました。

大阪会場

- 途中までしか出来なく残念でしたが、自分の燃えるポイントを知れて、生かせることは、将来の仕事選びにも役立つ。
- 学生が実施したものは見た事があったのですが、自らやってみるのは初めてだったので、学生の立場で、学生の気持になって体験する事ができました。
- 全く興味を示さない学生には、この様に話してみるとかの例が有れば良い。
- "④ですが、このワークについては学生にとって少し取組みにくい気がしました。
- 教員用ガイドにつきましては、自校用に組み合わせや項目等をまとめ直し、活用させていただいています。
- 学生の立場を理解できて良かった。
- プライベートな部分については、余り話したがらない学生も多いかと思いますので、実施は少し難しいのかもしれないという気がします。
- 時間が足りなくて、すべて記入ができなかった。記入できていない学生の気持がわかった時間でした。
- 様々な問題点を解消してから、有意義に進行出来たらと思います。
- なつかしい頃を思い出すことができました。

- 講師の技法によって学生の理解が異なると思った。学生の前で直ぐにやるのではなく、研修が必要だと感じた。
- 障害（精神的）を持つ学生や心に傷を持つ学生へのフォローなど、リスク管理などにも触れて欲しかったです。
- 学生には提供しているが、いざ自分がやってみると難しいです。
- 自らを相手に伝えるために、振り返りをすることで、まとめて話しがしやすく感じた。ただ、学生が書けるかどうか、バラつきがあるようにも感じた。
- やはり、過去にトラウマを持った学生へのケアが最も問題であると思いました。
- 過去を逆戻って自らを再度発見できた。
- 自分自身の事を振り返り、今現在にいたるまで気がつかなかった事を思い出し、乗り越えられた事、時の解決、他の解決、更なる等々、今なぜこの仕事なのかに結ぶことができる発見等。
- やった事でより具体的になった。本校で前期導入したが、他校の先生の御意見がうかがえたので参考になりました。
- 自分を知ること、弱点、強味を確認できる。
- 授業で自己分析はさせますが、自分のことを分析することはなかったので、いい機会になりました。
- やはり、自らが体験する事は勉強になります。
- やる前は、むずかしいと思ったが、やってみるとたくさんでてきた。
- 思ったよりも、楽しくできた。
- まず、自分自身で体験できたこと、他の先生方の話が聞けたことが良かったです。
- 自己を振り返るよい機会となりました。
- なかなか自分の事を振り返る機会がないので、学生にとっても有意義な機会だと思います。
- 8 月にやった時とは、また違う感覚でできたので、今後も個人的にやっていこうと思ってます。
- アイスブレイクという手法が面白かったです。私でもすぐ出来そうです。
- 自分自身の価値観を再認識できた。
- 導入時期や学生の状況、配慮する点が多々あるが効果は期待できると思う。

④ 今後、希望する研修会のテーマがありましたら、お書きください。

東京会場

- キャリア教育を授業にとりいれていく上で、さらに参考になる研修会を希望したい。
- 各学校のキャリア教育の実施内容及び事例、結果等を含む自由なグループワークなど。（すこし長い時間をもって）
- 実際に「キャリア教育」を導入している学校の現状、課題、問題点を知りたいです。

- キャリア養成講座…受講してみたいです。
- ストレスマネジメントの研修会を希望します。
- 「未来志向の作り方」
- キャリア教育として何らかの効果、期待がもてる授業事例をもっと知りたく思います。そのための教員、職員研修の方法も併せて。
- 泊り（夜も）で話し合う機会をぜひ！
- 今回のプログラムでいうと後半部分を③か④にしぼって、もう少し深く掘り下げて、体験もしくはシェアリングを行うとよいかと思いました。また、模擬授業はもっといろんなパターンを見てみたいと思いました。

大阪会場

- コーチング「やる気の根っこ」に積極的に取り組むためのやる気を持たせるには？
- やる気の根っこ　実践報告、情報交換会
- 学習ポートフォリオ
- 協同学習の技法。
- 貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- キャリア教育導入の具体的なカリキュラム事例と、実施後の成果に関する報告があれば参加してみたい。
- 養成講座に大変興味を持ちました。また、有意義な研修会のプランを期待しています。
- 体験発表（経過について）
- 中途退学対策を含め、教育力、指導力の向上策に関するもの。
- コミュニケーション障害等、軽度の障害がある学生もしくは軽度の障害のうたがいがある学生へのキャリア・サポートについて等。
- 今は出てこないです。
- 具体的な事例（やる気の根っこを実施し、学生の反応や変化など）をとりあげての意見交換など。
- また、キャリア教育に関する研修会に参加したいと思います。
- ロールプレイング集中講座（傾聴、アクティブリスニング、オープン、クローズドクエスチョン）
- 教育技法向上のための研修があるとありがたいです。
-

⑤ 満足度

得点制のアンケートについて、個人の合計点を平均すると会場毎に次のようになった。（最高得点は 36）

東京	大阪
20.9	25.6

本章は、キャリア教育技法研修会における標記講演の内容を再構築するとともに、研修会全体を総括するものです。

第４章　専修学校におけるキャリア教育の現状と今後の普及・推進、他の高等教育機関におけるキャリア教育との比較

キャリア教育技法研究委員会
委員長　岡村　慎一

１．キャリア教育・職業教育の在り方について

2011 年 1 月 31 日中央教育審議会の答申では、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」示されています。その中で、若者個人のみの問題ではなく、社会を構成する各界が互いに役割を認識し、一体となり対応することが必要で、学校教育は重要な役割をはたすものであり、キャリア教育・職業教育を充実していく必要があるとしています。

キャリアを「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義し、そのキャリア概念に立ち、同答申はキャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義づけるとともに、これまで混同が見られた職業教育を「一定または特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育」と定義し、キャリア教育を職業教育と区分して意味づけています。

キャリア教育が目指す能力・態度は、「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」であり。その要素とは、キャリア教育によって育成すべき基礎的・汎用的能力として、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力とキャリアプランニング能力、さらに論理的思考力や創造力としています。

専門学校では、主として自立した職業人を育成する職業教育を行っていることを踏まえ、「早期から十分な職業理解や目的意識を持たせた上で一人一人のキャリア形成支援」をするように示されています。推進するポイントとして、自らの視野を広げ、進路を具体化し、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を、専門分野の学修を通じて伸長・深化させていくキャリア教育を行うこととしています。

２．大学と専門学校のキャリア教育

大学では、2011 年度より、教育課程と厚生補導を通じてガイダンスを実施することが、大学設置基準により定められ、「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの能力を発揮し、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整える

ものとする」（2011 年 4 月施行大学設置基準第 42 条の 2）とされています。

大学におけるキャリア形成支援実施状況として、「教育機関におけるキャリア・コンサルティングの普及等の状況に関する調査」（2011 年 3 月　厚生労働省委託）では、443 大学のうち 85.3%の学校がキャリア形成支援を実施しています。近々に実施予定が 4.7%と考えると、設置基準に定められたことにより大半の 90%が実施しているものと考えられます。

一方、「専修学校におけるキャリア教育に関する調査研究」（2011 年 3 月　専教振）によれば、725 校のうち 71.8%の学校が、「体系的・総合的なキャリア教育を実施している」と回答しています。同一の調査結果ではありませんが、大学よりも実施率が低い結果は、専門学校では設置基準等による定めがないこと、職業教育と区別するという認識をしていない学校関係者が多いことなどが要因として考えられます。

キャリア教育に携わるスタッフは、先の調査結果では、大学はキャリア・コンサルタントがいると 63.7%が回答しているのに対して、専門学校ではキャリア教育に関する有資格教職員が 26.3%の学校でいると回答しています。特に大学では学外人材を登用していると思われ、専門学校では、担任制による学生指導を行っていることから、キャリア教育も専任の担任等が行っていると推測されます。

キャリア教育或いは就職支援として、大学は、全般に就職支援を主として相談や就職活動向けガイダンス・セミナーの実施そして履歴書・エントリーシートの書き方、面接指導を実施しています。その中でキャリア支援としては、インターンシップを 76.3%の大学が実施し、キャリア支援の相談やセミナー・講座の実施等を 6 割から 7 割程度が実施しています。

専門学校では、職業教育として看護師等の医療系や介護福祉士養成の福祉系などの養成施設では病院・施設実習実施していることを除き、インターンシップを 61.7%が実施しており、体験学習・グループワークを活用して、自己理解を促進する科目・キャリアガイダンスを 3 割から 4 割が実施しています。全体的には、大学と比較して専門学校が実施している割合は決して多いとは言えません。しかしながら、大学は就職支援を行う学生職業センターなどの公共機関や専門業者と連携をしている中、専門学校は、外部機関として企業・業界団体との連携を取りながらキャリア教育に取組んでいるという特徴がみられます。また、大学では在学生の一部に行っているケースがまだ多いようですが、専門学校では、多くはほぼ全員の学生に行っている場合が多いようです。

キャリア教育に携わるスタッフの人材育成については、大学では大半が支援をしていない中、専門学校では、校内研修を半数以上の学校で取組んでおり、さらに今後も普及・啓発を行いたいと考えて、キャリア教育の取組みを行うことで、学生のやる気の向上を充実させたいと考えています。

３．キャリア教育の今後の課題

今後の課題として、教員と職員の協同が必要です。キャリア教育の理解やキャリア・サポート・

マインドを修得するための教職員研修を積極的に取り組むことで、教職員の意識改革ややりがいにもつながります。更には、学習者である学生のやる気が向上することにもなると考えています。

キャリア教育では、就職支援の実施時期等を考えると早期の入学前時点から実施することが有効で、「インターンシップ」・「体験学習」・「グループワーク」・「ロールプレイング」の学習法を取り入れ「キャリアガイダンス」「自己理解のための科目」を体系的に行う教材が必要となります。

今回のキャリア教育技法研修会では、専教振が発行しているキャリア教育教材「チーム学習型キャリア教育ワークブック　やる気の根っこ」を使ったモデル授業を紹介し、参加された教職員の皆様に体験学習をしていただき、その有効性を体感していただきました。このような研修会でキャリア教育の必要性を理解し、どのように行うかを学ぶ機会を増やすことが重要だと考えています。

また、キャリア教育重視を明確にしている学校ほど、企業や業界団体等の外部機関と連携してキャリア教育を進めることが重要だと考えているようです。今後益々外部機関と連携するためのコーディネイトをする人材や役割を担う組織が必要だと考えています。

そして、専門学校では、キャリア系資格者を有する学校は概ね 4 分の 1 ですが、キャリア教育関連の教職員研修を行っている学校ほど、自主退学率・卒業時進路未定者割合が低く、更に内部キャリア教育専門人材の育成が、他の高等教育機関と比較しても、専門学校の優位性となると思われます。担任を中心とした学内実務者には、キャリアに対する理解とカウンセリング・マインドの必要性を実感できるような研修として、専教振が実施している「キャリア・サポーター養成講座」を積極的に活用することを薦めたいと考えています。

参考資料

- A. 2010 年 3 月「専修学校におけるキャリア教育に関する調査研究」（調査期間：平成 22 年 7 月 6 日～7 月 23 日、送付校数：1,667 校、回収校数：725 校(回収率 43.5%）　専教振
- B. 2011 年 3 月「キャリア・コンサルティングに関する実態調査結果報告書」「教育機関におけるキャリア・コンサルティングの普及等の状況に関する調査」対象　全国の高等教育機関（大学・短大・高等専門学校）に対する悉皆調査 1,169 校。回収数 671 校（回収率 57.4%）　厚生労働省委託

本章は、キャリア教育技法研修会における講演「キャリア教育におけるモデル講座実践の報告」に至る研究の経緯をまとめたものです。

第５章　モデル授業の実施と見学・研究

キャリア教育技法研究委員会
委　員　佐々木　卓美

１．モデル授業の実施と見学・研究の趣旨

ワークブック及び教員用ガイドの完成度を確認し、その結果を教員用ガイドの改訂とキャリア教育技法研修会における講演に活用するため、平成 23 年度キャリア教育技法研究委員会（以下、「委員会」という。）が企画したモデル授業を委員の所属校にて実施し、その様子を委員会にて見学した。

２.モデル授業の実施と見学・研究の企画・立案

モデル授業の実施と見学・研究について委員会で示された主な方針・課題は次の通りである。

第１回委員会

① 「やる気の根っこ」教員用ガイド改訂に伴い、委員会で企画したモデル授業を実施し委員会にて見学をすることで完成度を確認する。

② モデル授業の実施校については、「やる気の根っこ」を展開していない委員の所属校で実施を予定。展開する学科、内容については次回の委員会にて検討する。

③ モデル授業の状況を、「キャリア教育技法研修会」にて報告する。詳細については今後の委員会にて検討する。

第２回委員会

① モデル授業実施の目的は、「やる気の根っこ」の一部をモデル授業として展開し、授業の様子やクラス担任からの感想、そして、受講学生へのアンケートやヒアリング等から、「受講学生の声」としてまとめたものなどを、11/22・12/1 開催のキャリア教育技法研修会にて報告する。また、「やる気の根っこ」教員ガイド改訂に伴いモデル授業を委員会にて見学し完成度を確認する。

② 実施日時は、平成 23 年 9 月 27 日（火）15:00～15:50（50 分）を委員の見学日とするが、アイスブレイクと本番のモデル授業を円滑に実施するため、9 月 20 日（火）15:00～15:50（50 分）で前段授業を実施する。

③ 実施する専門学校と対象学科（グラフィックデザイン科 1 年生）の決定。

④ 担当講師は、「やる気の根っこ」を展開している委員会の委員とする。

⑤ テキストは、チーム学習型キャリア教育ワークブック「やる気の根っこ」(P1～P9)

⑥ PC は担当講師が持ち込み、ホワイトボード・プロジェクターを使用。

⑦ 参加する学生への動機付けとして、「キャリア教育の一貫として、過去を振り返り自己理解を深めることで、自分にとって頑張ったことや嫌だったことに気付き、生き甲斐、働き甲斐をみつけ、キャリアを考えるきっかけを得る。」

⑧ 授業の様子をビデオ撮影しキャリア教育研修会発表用に編集する。

⑨ 参加学生を対象にアンケートを実施する。

⑩ 9 月 27 日（火）の第 3 回委員会は以下の内容で実施する。

13：00～14：45　通常審議

14：45～15：00　休憩

15：00～15：50　モデル授業見学

15：50～16：00　アンケート記入

16：00～17：00　意見交換会

⑪ 実施概要の確認

実施概要

日　時：第 1 回平成 23 年 9 月 20 日（前準備として実施）

第 2 回平成 23 年 9 月 27 日（委員見学日）

各 50 分　　合計 100 分

学　科：グラフィックデザイン科（1 年）

教　材：「やる気の根っこ」

⑫ 内容の確認

《第 1 回　9 月 20 日実施内容》

テーマ：「第 1 章チーム学習を進めるためのヒント」

目　標：①チーム作業の楽しさと大切さを実感する

内　容：①アイスブレイク

②何故チーム作業？の説明

③「ゴンベン」テスト

《第 2 回　9 月 27 日実施内容》

テーマ：「第２章　自己理解」

目　標：①心地よい時間を作る

②自分について発見する

内　容：①K 君のお話から

②仕事の根っこ（人生の根っこ）

③私が燃えるわけは？

④まとめ

第３回委員会

①第 1 回平成 23 年 9 月 20 日に実施されたモデル授業の状況報告を行った。

②第 1 回モデル授業の実施内容

第 1 章　第 1 節　チーム学習を進めるためのヒント

1.「導　入」

（1）「はじめに」を説明

（2）「楽しくワークをするために」を説明

2.「アイスブレイク」

（1）お誕生日の順番で並びましょう

3.「なぜチーム作業」

（1）3 つの能力と 12 の能力要素

（2）新卒採用で求められる能力

4.「ゴンベン」テスト

（1）一人の作業

（2）チームの作業

5.「まとめ」

（1）チーム作業の大切さを再認識する

③第 2 回モデル授業の内容の確認

第 2 章　第 1 節　過去を振り返ろう！

1.「導　入」

（1）授業内容と概要を説明

（2）留意事項の説明

2.「3.仕事の根っこ（人生の根っこ）」

（1）ライフイベント表

（2）4 名のグループで発表

（3）ライフイベントの説明

①イベントによって気持ちが変わる理由を発見する。

②働く上で大切にしているものは何かが浮き彫りになる。

③個人個人が違う価値観で生きている事を認識する。

※自分の根っこを知ることにより安心し冷静になれる。自分らしさを大切にする。

2.「4.私が燃えるわけは？」

（1）一番夢中になった事、燃えた事、ヤッターと感じた事について

①いつ頃、②どんな事、③思った事、④感じた事、⑤考えた事

（2）一番嫌な事、落ち込んだ事について

①いつ頃、②どんな事、③思った事、④感じた事、⑤考えた事

（3）燃える訳、燃えない訳について

①燃えるために必要な求める条件　②あってはならない条件

3.「まとめ」

（1）今日のセルフワークとチームでの話し合いの感想

（2）留意事項を提案として伝える

（3）日付を記入し今後に活かす

（4）アンケートの記入

④第 2 回モデル授業のタイムテーブルの確認

15：00～15：50　模擬授業

15：50～16：00　アンケート記入

16：00～17：00　委員会意見交換会

⑤受講者・会場設営

参加学生 35 名を 1 チーム 6 名で 5 チームと、5 名で 1 チームの合計 6 チームの構成とした。また、チームでディスカッションがしやすいように、6 つグループ形態で机を配置した。

３. モデル授業受講者アンケート調査結果

受講者 35 名に対して、モデル授業を実施する前後でアンケートを実施した。アンケートの集計結果は次の通り。（1）～（4）は実施前、（5）は実施後のものである。

（1）あなたにとって「キャリア」とは何ですか。　（自由記入）　　（　）は回答数

※この質問のみ、モデル講座を受講する前に実施アンケート

①　経験（12）　②体験（2）　③実績（3）　④経歴（3）

⑤ 技術能力（3）　⑥わからない（12）

『この漠然とした質問をモデル授業の開始前にしたところ、12 名の学生が「経験」と回答した。一方「わからない」と答える学生も同数いた。また、「実績」、「経歴」、「技術・能力」が各 3 名。その他「ステータス」、「ステップアップするもの」、「社会に出て重要性を伴うこと」、「人生を生きていく武器」、「自分の能力を社会に認めさせるための履歴」といった回答があった。』

（2）なぜこの学科に入学をしたのか、その具体的な理由をお書きください。（自由記入）

・グラフィックデザイナーになるため

・デザインの会社に就職するため

・絵を描くことが好きだから
・ものづくりが好きだから
・デザインの専門知識や技術を身に付けたい
・デザイン関係の資格をとりたい
・好きなことを仕事にすることで、つらい中でもやりがいを感じるため
・デザイン関係の仕事であれば、働くうえで長い間高いモチベーションを維持できると思う

『この質問では、ほとんどの学生が、学科選択の理由を明確に持っていた。』

(3) 卒業後どのような仕事につきたいと考えていますか。職種、具体的な仕事内容などをお書きください。(自由記入)

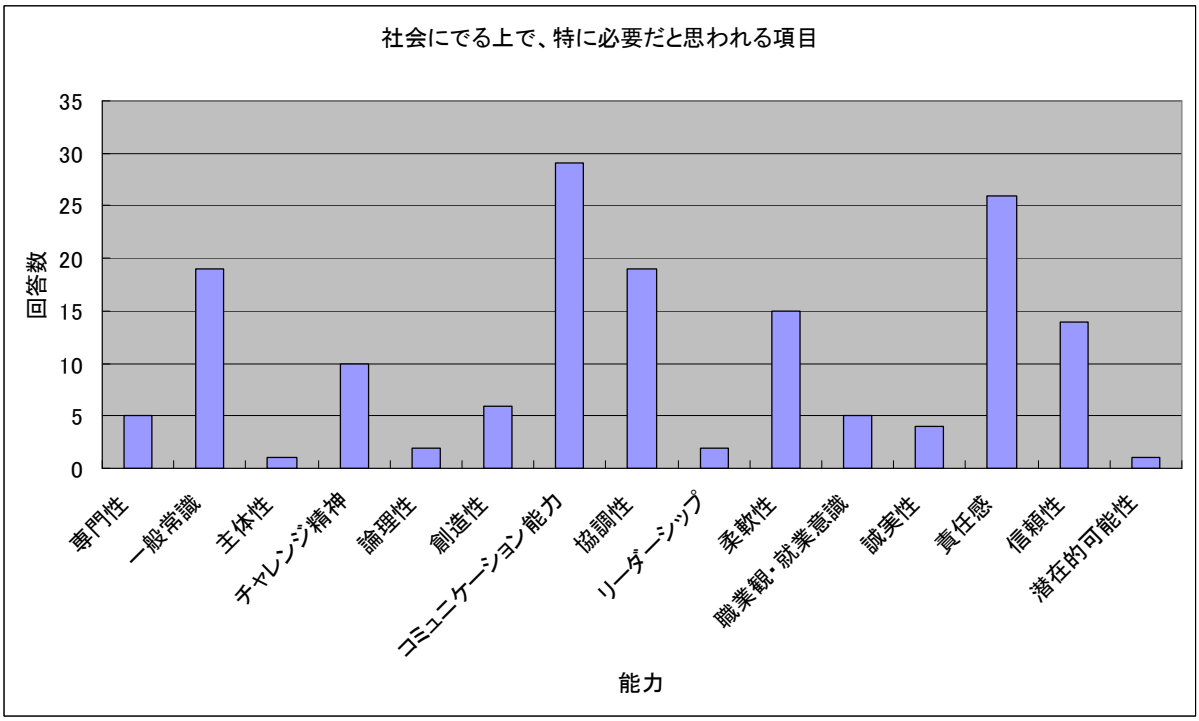
・グラフィックデザイナー
・イラストレーター
・エディトリアルデザイナー
・DTP オペレーター
・おもちゃのデザイン
・CD ジャケットデザイン
・キャラクターデザイン
・広告制作デザイン
・パッケージのデザイン
・雑誌のデザイン

『90% 以上の学生が卒業後に就きたい職種や具体的な仕事内容までを回答しているが、「未定」「未記入」といった学生が約 8%いることも確認できた。』

(4) 社会で、特に必要だと思われる項目を選択し番号を記入してください。(5 つまで選択可)

①専門性　②一般常識　③主体性　④チャレンジ精神　⑤論理性　⑥創造性　⑦コミュニケーション能力　⑧協調性　⑨リーダーシップ　⑩柔軟性　⑪職業観・就業意識　⑫誠実性　⑬責任感　⑭信頼性　⑮潜在的可能性

『この質問には、1 位「コミュニケーション能力」、2 位「責任感」、3 位「協調性」と回答しており、コミュニケーション能力、協調性については、(社) 日本経済団体連合会が実施している「新卒採用者に関するアンケート調査結果の選考にあたっての重視点でも、上位トップ 3 の項目である。』



「平成 23 年度　モデル授業受講者に対するアンケート」調査結果

(5) モデル授業を受講した感想をお聞かせください。

① 普段はあまり意識することがないキャリア教育という分野について学べたことは貴重な経験だったと思うし、授業内容や神山先生のお話は非常に面白かった。ただ、当然ながら 2 時間の授業で何かが身に付いたとは思えない。もっと長いスパンでこのような授業があれば嬉しい。

② 今回、神山先生の講座に参加して、改めて思う事や、気づかされた点、これから身に付けていかなければならない事などを知る事ができました。印象に残っているのが、自分の自己理解をするというテーマの中で自分の過去を自らが書き、その時の気持ちの動きを表すというもので、私は過去を振返る事の重要性、もう一度自分を見つめなおす、良い機会となりました。

③ 普段話さないような人たちと話すきっかけになったり、「自分」から何かしなきゃ！と言う気持ちをいただいたイベントでした。たのしかったです。

④ 高校生の時にキャリアコアという授業があってこういう授業を受けた事があったのでまたキャリア教育の授業を受けられて楽しかったです。

⑤ 普段学べないキャリア教育を、参加型の授業で楽しく学べた。今自分になにが必要なのかを改めて考えさせられるとても為になる講座でした。

⑥ とても楽しく、また自分を見直すことができたすばらしい授業だった。コミュニケーションをとる楽しさや難しさも学ぶことができ良い体験だった。また是非やりたい。

⑦ みんなのこと、少し知れたような気がしました。みんなの学科志望理由を聞いて、やっ

ぱりこういう仕事に就きたいから、とはっきりしている人が多いなと思いました。講座とても楽しかったです。普段あまり話さない人と接することが出来るので、いい機会だったと思いました。またあったら、嬉しいなと思います。

⑧ 私は一度就職活動を経験している身なので、過去の自分を振り返ることで、PR にいかせること等、今日の授業の大切さは分かっているつもりでいました。けれど、ここまで掘り下げては大学側ではやってくれないので、非常に良かったし、親切丁寧な自己分析だなと思いました。また、就活を始めるにあたり、役に立ちそうだなと感じました。特に「燃えるためになくてはならない条件、あってはならない条件」はそこから企業の選ぶ基準がみえてきたりするといったお話しは、とても参考になりました。ありがとうございました。

⑨ 自分の過去を振り返ってみたりするのが結構楽しかった。 グループの人とこうやってふれあうのもいいと思った。

⑩ いつもと違う授業を受けて意識が変わった。

『「楽しかった。」「またやりたい。」「ためになった。」などの回答が多く、否定的な意見は一切なかった。』

４．クラス担任より

モデル授業を見学したクラス担任は、授業内容や教材について以下の感想を述べている。

(1) チーム内での活発な交流を通じて、キャリアを考えるきっかけになった。

(2) 参加型のワークショップ授業は参加型で授業に臨むことができるので良い。

(3) 書き込み式のワークシートになっていることから細かく段階的に自分を考えられる。

(4) とてもよい教材があったので、学生の反応も良く実のある授業内容だと感じた。

(5) 次年度以降に学科で使用したい。

５．教材の特徴と学生の反応

モデル授業を委員会で見学し改めて「やる気の根っこ」の有効性と特徴について確認した。

(1) 自己分析がしっかりと行える。

自己分析をセルフワークで取り入れることにより、自分を振返る時間が作れ、新たな自分の発見があることや、自分自身の成長を感じることができる。このような時間を学生が自ら作ることは難しいため、授業の中で一定の時間作ることは有効である。

(2) チーム型学習によりコミュニケーション能力が高まる

社会人基礎力の能力要素であるコミュニケーション能力をチーム型学習で養うことにより、チーム内で共感が生まれ、安心することにより、仲間意識が生まれお互いに励ましあることにより、他のクラスメイトの事も考えられるようになる。

(3) 情報のシェア（リフレクション）を継続的に行う事で、成長を感じられる。

チーム内、チーム間のリフレクションにより、多くの情報収集が可能となる。また、新卒、既卒、留学生といった自分とは異なった境遇のチームメイトから刺激を受ける。現にモデル授業後のアンケートでは、「目的意識をしっかり持った人が多く、自分も何かやらなければと思った」いった回答が寄せられている。さらに、リフレクションを継続することで、自分自身や友人の成長が感じられるようになる。

(4) キャリア形成を意識することでキャリアプランニングに役立つ

キャリア形成について皆で考え、自己理解と仕事理解を進めて行くことにより、これからの仕事選択、人生の選択の際に役立つ。

(5) 学生の反応が良く、楽しく学べる教材である。

「モデル授業を受講した感想についてお聞かせください」のアンケートでは、「楽しかった。」「またやりたい。」「ためになった。」などの回答が多く、否定的な意見は一切なかった。

６．まとめ

「やる気の根っこ」の教材は、キャリアをどのように考え、自分自身のキャリアを自ら選択・決定していくために、どのように行動すれば良いのかをチームの力を通じて気づき学ぶことを目標につくられた教材である。目前の就職に対する指導は必要であるが、卒業後、社会人として就業するなかで、キャリアをライフキャリアとして長期的に捕らえていく視点で設計された本教材「やる気の根っこ」は、キャリア教育を行う上で有効であり、モデル授業で実施したアンケート結果や、教材の特徴と有効性から総合的にみて完成度が高い教材だと思われた。

また、自己分析を行い自己理解をすることは、基礎的・汎用的能力のうち、キャリアプランニング能力を育てるためのベースをつくる教材としても有効なものだと考える。

一方で、チーム学習型の教材であることから、開発当時は特に意識していなかったという「コミュニケーション能力の育成」にも大きな効力を発揮することがわかったことは、想定外の成果であった。

今回、ビデオ撮影したモデル授業の様子を 10 分間に編集し、11 月 22 日の東京会場、12 月 1 日の大阪会場にて開催されたキャリア教育研修会の中で、「キャリア教育におけるモデル講座実践の報告」としてモデル授業の紹介ビデオを上映し、授業の内容や受講学生の変化、また、受講学生のアンケート結果について報告した。

以上

第６章　教材サンプルの企画・作成

１．経緯

財団では、平成 23 年 3 月に開催した理事会において、キャリア教育の普及・推進のため、当会が開発した「やる気の根っこ」の教材サンプルの作成と配布を予算化していた。

委員会では、財団の決定した事業計画への協力の可能性を審議した結果、教材サンプルの企画・編集は、調査研究上可能かつ研修会にて活用することも可能と判断し、教材サンプルの編集・開発をすすめることとした。

２．審議結果

数回の審議の結果、判型は改訂版教員用ガイドに合わせた A4 判・横型とし、実際のワークシートをコピーフリーで掲載するとともに、教材全体の狙いと仕組みを理解できる内容にすることとした。

３．研修会における試用版の活用と製品版の完成

平成 23 年 11 月に完成した試作版を「キャリア教育技法研修会」にて配布し、「キャリア教育体験講座、グループワーク、シェアリング」にて使用した。

その後、研修会で得られた情報を元に、更なる改訂を加えた製品版を 12 月中旬に完成した。

財団では、この教材サンプルが専修学校におけるキャリア教育の普及・推進に資することを目的に、全国専修学校各種学校の会員校に配布するとともに、ホームページにて無用でダウンロード可能な状態にすることとした。

第７章　委員会活動の総括

キャリア教育技法研究委員会
委員長　岡村　慎一

平成 23 年度、財団法人専修学校教育振興会（以下専教振）では、「専修学校におけるキャリア教育に関する教育技法」および「平成 21 年度開発の学生向けキャリア教育教材・教員用ガイドの改訂」等について調査研究を行うため、専修学校関係者を中心とした「キャリア教育技法研究委員会」を設置しました。

その調査研究の経過は、専修学校教員研究協議会事業「キャリア教育技法研修会」にて、100 名を越える専修学校関係者に対して途中報告をするとともに、その研修会で受講者から頂いたアンケートは、調査研究における貴重な資料となりました。委員会活動の総括をするにあたり、まずはご参加いただきました皆様に深く感謝いたします。

研究委員会では、同研修会で得たキャリア教育の更なる推進に対する熱いメッセージを、今後の財団におけるキャリア教育事業に反映させていくことで、御礼とさせていただければと考えています。

さて、専門学校のキャリア教育は、職業教育とキャリア教育の密接な関係から、従来そして今後も教職員、特に担任等が実践者となることが想定されます。しかし、各専門分野の教職員の多くは、キャリア教育の重要性を十分に理解しながらも、深い理論的・実践的理解のない中でキャリア教育を進めることに不安を持たれているようです。特に、学生一人一人が異なるキャリア観を持っているということを主体的に気づき、社会人としての基礎的能力の必要性を認識し体験的に学習する場を作ることを、従来の指導手法だけで行うことに、教職員は戸惑いや不安を感じていることが多いようです。

「キャリア教育技法研修会」の参加者からの感想や意見でも、次のような声が多く寄せられています。

・「どのようにキャリア教育の授業をしたらよいのか？」
・「キャリア教育とは何か、なぜそれが求められ、どう取り入れていくのがよいのか、知ることができた」
・「キャリア教育について少し道筋ができた気がします。・・・取組み（大学・専門）の現状を知ることができました。」
・「担任個人に任せられている部分が多いだけに、教材を提供して頂けるのは選択肢が増え、役立ちました。」
・「教員のレベルアップを行う必要があるかと思います。」

などです。

今回の委員会活動は、内部の職業人たる教職員自らが、キャリア教育をいかに進めていくかに焦点を当てました。その具体的方法は、財団が開発したキャリア教育ワークブックの指導者向けガイドの改訂でした。そして、そのワークブックとガイドを利用したキャリア教育技法普及のための研修会を通じて、教職員自らがワークを通じた自己理解の促進とキャリア教育の必要性を一層理解することにつながると考えました。

教員用ガイドの改訂は、教職員がまずはキャリア教育を導入してみようとしたときのハードルを下げ、各テーマの目的を明確にして、担当する教職員がスムーズに授業を展開できるようにすることを意識して行われました。

このワークブックの特徴である「キャリアガイダンスの中で行えるキャリア形成支援プロセス」をチーム学習により行えることも重視しました。このことにより学生の特性を踏まえ、仲間との連帯感や仲間からの承認による自己効力感が、チームワーク力や学生のやる気を向上することにも効果があると考えているからです。

大学では、キャリアコンサルタント等の外部有資格者によるキャリアガイダンスや自己理解を促進する支援を行っています。しかし専門学校では、キャリア教育に対する専門的な知識がさほどなくても、職業教育に毎日関わっているものとして、教職員が、このワークブックと教員用ガイドを活用することで、キャリアに関する知識やカウンセリングマインドで対応するファシリテーション手法を活用してキャリア教育を実施できるようになります。

キャリア教育の軸となるキャリアガイダンスにて、自己理解の促進と社会人基礎力として必要な職業能力であるチームワーク力を合わせて学習するために、教職員がファシリテータとして学生に関わっていただければ良いのです。

その関わり方で重要なことは、教職員自らが体験的に得たこと、感じたことを大切にして、学生一人一人を尊重することです。この学習効果は一律ではありませんが、教職員が体験していただくことで実感でき、学生を導くことにつながるはずです。

この度の委員会では、「キャリア教育技法研修会」にて、本委員会の活動状況のご報告と経過に対する皆様の貴重なご意見をいただきましたこと、改めまして深く感謝いたします。

今後は、ワークブックの活用事例を増やし、その実践例を共有する場を設けることで、更にキャリア教育を普及・促進したいと考えています。また、専教振の養成するキャリア・サポーターとの連携の中で、職業教育を行う専修学校としてのキャリア教育の推進に寄与していきたいと考えています。

最後になりましたが、変革への対応スピードを求められる時代、中核的人材養成を行うことを期待される教育機関として、中等教育機関との連携を図りながら、より社会の要請に応える職業教育を行うためにもキャリア教育の推進を図ることが必要だと考えます。個々の学校単位ではなく、専教振等による複数の教育機関が集い、専門学校にとって有効性のあるキャリア教育手法を開発・共有していければと切に願っています。

参考資料　教員用ガイド第３版（部分・予定稿）

本報告書の第２章に記した研究結果に基づき作成しました教員用ガイド第３版のうち、「はじめに」から「第２章」までの予定稿を掲載します。第３章と第４章は都合により割愛しております。

なお、教員用ガイドは随時改定を行い、インターネット上で配信しております。最新版教員用ガイド全編のダウンロード先は、「やる気の根っこ」利用校に随時お知らせしています。

はじめに

「やる気の根っこ」教員用ガイドの執筆にあたり

1. キャリアを考えること

毎年、初夏を迎える頃になると３月に卒業をしたばかりの卒業生が、学校に来るようになります。「職場は楽しいし、仕事がおもしろい」と多くの卒業生は溌剌とした笑顔を見せてくれますが、中には、「辞めようかと思ってます・・」と元気のない声で話し始める卒業生もいます。社会人となって無我夢中で走ってきて 3 ヶ月が過ぎた頃に、「辞めてしまおうかな・・・」という迷いに囚われる人が多いのもこの時期です。

「思ってたような仕事じゃなかった・・」
「この仕事にはむいてないのかも・・」
「もっと、やりがいのある仕事がしたいのに・・」
「先生が勧めてくれたのに・・話が違う・・」

教師であると同時に社会人の先輩でもある私たちは、それぞれの言い分を聞きながら、心の中で「自分もそうだったなぁ・・」と苦笑いしながらも、「もう少し頑張ってみなさい」と話すのですが、悩んでいる本人の心にはなかなか届かない、もどかしい思いをすることもしばしばです。

大学・短大・専門学校を卒業し、就職をした人の３割から４割が３年以内に離職をするという現実を前にして、また、一旦、離職をすれば再就職が非常に厳しい経済状況の中で、辞めずに働き続けていくことの意味、働く意味、そして自分のキャリアについて在学中に考えておくことは、より大きな意味を持つようになりました。そうして自分に向き合い、自分のことを理解し、自分のキャリアについて考えた経験は、社会人となって仕事を続けていく中で、うまくいくときはもちろん、うまくいかないとき、壁にぶつかったときに、自分の気持ちを支えてくれるものになります。そしてそれが自分の仕事人生を生きていく上での自分なりの物差しを持つことにもつながっていくのだと思います。

2. 自己理解の促進と生きる力

そこで、私たちは、この教材を「自己理解」・・自分自身のことを考えるということ、自分の価値観・興味・能力を探ることからスタートすることにしました。

自分は、どんなことに興味があるのか？
自分が、少し自信を持てることはなにか？
自分が、働く上で大切にしたいことは何か？
自分が、生活で大切にしたいことは何か？
自分は、どんなことをやってきたのか？
自分は、これからどんなことをやりたいのか、挑戦したいのか？
自分は、それをなぜやりたいのか？
自分の人生をどんなものにしていきたいのか？

私たちは、毎朝、鏡で自分の顔を見ることはあっても、自分のことを、自分のこころを見ることはなかなかありません。自分の内なる声に耳を傾けて、自分について考えてみること、自分の価値観について考えることは、自分の将来に向き合うことにもつながるのです。
今、「自己理解」「自己分析」のためのさまざまなワークが、いろいろな本で紹介されています。みなさんの学校でも、学生と一緒にワークに取り組まれてきたことと思います。でも、その中で疑問に思うこと、どうしたらいいのだろうと思うことに出会ったことはありませんか。

ワークをすることで、学生は自分のことをほとんど初めて客観的に見つめます。自分自身のことを見つめ向き合う中で、好きなところや、得意なことを改めて確認できて、自分のことを認めてやれることもあれば、反面、弱いところ、マイナスなところをある痛みを伴って意識させられることもあります。ワークをやってみて、自分が大切にしたいこと、自分が譲れないこと、自分がちょっと自信を持てること・・に気づくことができる学生は、既に、

深さに差はあっても、自分を見つめることができていた学生ではないかと感じることがあります。
一方、ワークをやっている途中に、「先生、あたし、なんにも書くことない」「がんばったことも特にないし」「何でもいいから、早く就職したいだけだし」「なんか振り返ってみたら、やりたいことをみんなあきらめてきたのがわかってきた・・つらくない？」「今、こんなのやっても、ちょっとしたら、また変わってるかもしれないし・・意味なくない？」
そんな声を聞くことも少なくありません。

自己肯定感の低い学生たちに「今の自分でいいんだよ」と、少しおおげさかもしれませんが「生き続けていることだけで十分なんだよ」ということを伝えたい。そして、そこから、自分だけではなくて、周りの人も同時に生きていて、お互いに生かし合っていること。さらにそこから一歩進めて、誰かの役に立つことが自分の喜びとなり、自分が必要とされていると感じることが生きがいとなり、自分を支え、強くしてくれるということ。同時に、人から喜びをもたらされることが自分にはうれしい、そういう意識に目覚めるところまでの手助けができないかと考えました。

人に感謝するところから、人のために働く、人に喜んでもらえるような仕事ができてうれしい、今この世にある人たちだけでなく、また、自分の周りにいる人たちだけでなく、未来の人たち、遠くの人たちにも役に立つような仕事をしたい、そういう思いを少しでも実感できるように、それが生きる力につながるように支援したいと思っています。

「今、何がなんでもやりたいことはこれだ」と言えなくても、自己分析のワークをやって「自分には、得意なことなんて特にない」と思ったとしても、人は誰でも、自分の個性や能力を活かすことのできる場がある、いきいきと生きていくために大切な自分の生きがいを見つけていこう、と伝えられるものにもしたいと考えました。

3. 未来への勇気

企業の採用担当者が大切にしていることは、応募してきた人が「今、何ができるか」ということではなく、「これから成長できる人なのか」「うちの会社のみんなとうまくやっていける人なのか」ということです。「これまでがんばったこと」も大切ですが、「これからがんばれそうかな」ということなのです。それをどこで判断するのかというと、その人の「価値観やものさし」です。その人はどんなことを大切にしていて、どんなことに喜びややりがいを感じて、働くということをどんな風に考えていて、どんな風に人生を生きていこうとしているのか・・ということを履歴書に書かれた言葉や、面接で交わす言葉や表情から必死で読み取ろうとします。そのことがきちんと伝わってくる人は、入社して直面するたくさんの厳しさ、悔しさ、情けなさ、大変さをきっと乗り越えられると信じているからです。仕事をして自活するということは、つらいことの方がうんと多いのですから、今までできたこと、得意だったこと、関心があること、好きなこと・・だけで、ずっと仕事を続けていくことは難しいと考えているからです。だからこそ、自分の「根っこ」がどこにあるのかをきちんとわかっておくことを大事にしたいと思うのです。

ですから、「自己理解」には、点数も順番もつかなければ、良い悪いもないことを理解させること、「人と比べてどうなのか」という視点ではなく「人から見た自分」という客観的な視点と、それを受けとめることが大切だということを理解させることを前提としました。

そして、「自己理解」を踏まえて、実際に働くとはどういうことなのか、働き続けるためにはどのような力が必要とされるのかを考え、自分のキャリアを自ら選択し、決定していくために、チームの力を通して気づき、学ぶことを目標としています。ワークも含め、就職のための How to 本ではない、仕事を通してどう生きていくかということを考えさせることができるものにするためにも、「自己理解」や「仕事理解」がなぜ必要なのかということをしっかり伝え、そのことが将来にどうつながっていくのかを理解させた上で、ワークに取り組むという流れを考えました。

併せて、社会人基礎力としての「チームで働く力」を意識する上で、学生にファシリテ―ションという関わり方を意識させることを大切に考えています。チームとしてワークに取り組む中で、互いに支え合い、成長しながら目

的に向かっていくことを体験してもらいたいと考えています。

学生時代は社会へ出る準備期間であり、助走期間でもあります。学生の中には、「就職できるかな？　面接試験って怖いな、社会人になんかなりたくないな・・・」と不安を抱いている人もいることでしょう。その不安を少しでも取り除くために、自分について考えることからスタートさせてみてください。そして、誰でも何かをすれば何かにぶつかること、それは自分だけではないということを気づかせてください。学生それぞれが、「これでいいんだ！」と納得感のある決定ができるように、そして、自ら考える力を持った社会人として一歩を踏み出すことのできる「未来への勇気」を持つことができるように、支援をしていきましょう。

4. 教員用ガイドの使い方

最後に、私たちが考える「教員用ガイドの使い方」についてまとめてみましたので、参考にしてください。また、教員用コラム等もぜひご一読ください。

（1）「やる気の根っこ」における教員の主な役割はファシリテーションです。学生自身に気づかせることが最も大切です。ただし、導き教えることが必要な場面もあるはずです。この配分は、みなさんの経験に基づいて工夫していただいて構いませんが、時間配分においても、進め方においても「気づかせる>導き教える」の原則を大切にしてください。

（2）ガイドの時間配分は目安です。学生全員がワークを終了しているのに時間を延ばす必要はありません。ただし、ワークが終わっていない、まだ考えていると思われる学生がいる、ここで考えさせ、気づかせることが必要だと考えられる場合には、ガイドにある時間の範囲内でじっくりと取り組ませてください。逆の場合もありますが、ワーク全体の流れを大切にして時間配分をしてください。

（3）ガイドで示した教員の言葉も参考例です。みなさんそれぞれの経験を活かして、自分の言葉で学生に伝えてください。ただし、事前準備として、ワークの指導目標をしっかりと理解し、参考例も読み込んでいただき、ワークを通して何を気づかせ、どんなことを伝えるのかを把握しておいてください。ただし、その指導目標をワークの最初から学生に伝えることはせず、ワークを通して気づかせていくことを大切にしてください。そのためにも、一度、自分たちでワークを体験し、流れを把握すると同時に、自らが気づくという体験も有効です。

（4）自己理解の大切さを学生に気づかせるためには、教員自身が自己理解していることが必要です。学生のためにも、ご自身のためにも、ぜひ自己理解を深めてください。

（5）「やる気の根っこ」を進めるためには「キャリア・サポーター養成講座（平成 21 年度までの名称は CSM 講座）」を受講することが有効です。ここでは、一人では学ぶことの難しい自己理解と傾聴の重要性に重点を置いた研修が行われます。受講されたことのない方は、ぜひ、受講をご検討ください。

（6）学生と深く関わる中で、自分の能力を超えていると思われる事例に直面することもあるかもしれません。医学的治療が必要な学生がいるかもしれません。このような場合は全てを自分で解決しようとせず、カウンセラーや医師などの専門家に相談することが必要です。

平成 24 年 3 月 1 日
財団法人　専修学校教育振興会
キャリア・サポート教材開発委員会

※ なお、第３版執筆にあたっては使いやすさ・見やすさを考えレイアウトを横組みに変更しました。また、時間配分については、実際に「やる気の根っこ」を使っていただいた先生方の意見を参考にして見直しをいたしました。

教員用コラム①

チーム学習、セルフワークを進めるにあたり

学生の主体性とチームワーク力の学習を促進するために、チーム学習、セルフワークを実施する際、以下の項目について必要に応じて繰り返し、学生に伝えていくことが大切である。そうすることで、参加する学生自身も心地よい時間を作れ、楽しく学習することができるということを伝え、全員に協力を促す。

チーム学習の留意事項

- 「やる気の根っこ　ｐ１　楽しくワークをするために♪」を全員で確認する。
- チーム内で発表をする際は、「ワークシートに書いたことのうち、自分が話をしたいと思う事柄のみで良い」ことを伝える。
- メンバーが発表をしている時は、極力、発表者の話を聴くことに専念するよう促す。
- チーム内で話をする際、他人の話を中断するような質問や自分の発言は控え、他人の話に反論することはしないことをルールとすることを促す。
- チーム内で、話をする役と聴く役が固定的にならないように、全メンバーで互いに気遣いながら進行するよう促す。
- 話をすることが苦手な学生がいる場合、温かくチームメンバーとして対応し、話ができないことは悪いことではないことを伝える。

セルフワークの留意事項

- セルフワークでは、回りを気にせず素直な自分の気持ちを書くよう伝える。
- ワークシートに記入する時間は、一人ひとりの大切な時間なので、静かに自分自身との対話をし、書き終えた学生は、終了の合図まで他の方が心地よく自分自身と対話をしていることに配慮して、今一度脳裏で自分と対話をするよう促す。
- セルフワークは、授業内の定められた時間で、安易に記入し終えることよりも、十分自分の中でしっかり考えた上で記入できるように試みることが、学生自身にとっては有効。普段あまり考えた事のないことと真摯に向き合うことを促す。
- 記入したワークシートは、他人に見せる必要はなく、本人の承諾なしに見ることは遠慮する。また、教員も本人の承諾なく見ることはしない旨を伝える。
- ワークシートは、今後気づいたときに振り返って何度でも書き直したり、書き加えたりしても良いことを伝える。
- ワークシートは、将来働きだしたときに、方向性を決定する際の参考資料として活用する可能性があることを伝える。

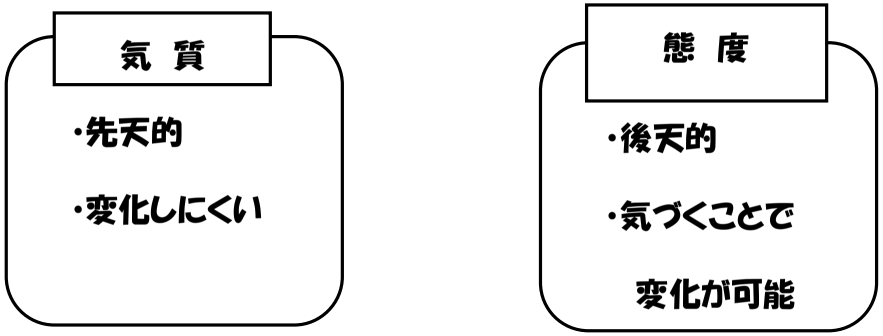
教員用コラム②

～“気づき”って何？～

自分の何に気づくのか？・・・３つの側面　・・・

１．社会的な側面

①普段の生活の中での自分の**態度や行動の仕方**（一般的に性格と言われるもの）



②**コミュニケーションの仕方**・・・話し方・聴き方などが相手との関係のあり方にどのように影響しているか
③**影響の与え方**・・・自分の発言や行動が、相手にどのような影響を与えているか

２．心理的な側面

①**ものの考え方**（価値観）・・・多様化している価値観を受容する（違いを認める）
②**心の動き**（感情）・・・人は心の中で起こっていること（感情）を、そのまま外に、からだの動き（表情など）で出しているもの。よく気がつく人は、相手を良く見ている人。

３．からだの側面

自分のからだの状況を知ることで、自分が相手に与えている影響の質や程度を知ることができるし、それに合わせて、柔軟に対応することができるようになります。相手のからだの状況を意識することは、顔色や表情などに目を向け、伝えることで関係を深めていくきっかけになります。

「気づきのメカニズム」

１．気づきとは

“気”という言葉は、頭で考えることではなく、内面で起こること、心のレベルで気持ちが動くことを言っています。
気づくとは、心にストレートなもので、ハッとする状態と言えるでしょう。

２．気づき～行動変容へのメカニズム

気づきの前状態（レディネス）

人は、意識・無意識に関わらず、どこかで変化・成長を願っていますが、一方で、今の状態を保持したいという思いも強いもので抵抗感もあります。
まずは、この抵抗感を壊すことから、変化が始まります。安定状態をぐらぐら揺り動かすことをしないと、停止状態になってしまいます。
今の状態を解凍することによって気づきへのレディネスをつくることになるのです。

↓

気づきから変化へ

揺れ動いている状況のときに、内外から何らかの刺激が加わることで気づきが始まります。
例えば、仲間に映った自分の姿をフィードバックされることで、自分のありように気づかされることになるのです。
それまでとは違った自分の姿を見つけることがおこります。新しい自分の発見といえばよいでしょう。ただし、ここでの刺激の与え方、つまり、フィードバックの仕方は、あくまで相手本位で評価しないこと、非難攻撃であったり、相手をある方向に持っていこうとするものであってはなりません。評価されると防衛的になってしまって、あるがままの姿が見えなくなり、気づきにつながりません。

↓

変化の定着化

変化したことをそのまま放っておくと、元の状態に戻ってしまう恐れがあります。変化はなかなか定着しないものです。そこで、体験したことの一般化や他者からの承認などが有効でしょう。

気づきの促進のために

①自分への意識・・・自分ってなにものか？ということに、どれ程関心を持っているかということです。人は、新しい試みをする中で、自分に意識を向けてみると、新しい発見があるものです。

②自己フィードバック・・・他人からなされるものですが、なかなか普通してもらえないものです。そのため、自分で自分にフィードバックすることを、まずは自分の発言や行動が、相手にどのような影響を与えたのか。ということに目を向けます。

③他者からフィードバック・・・他者に映っている自分の姿を、評価しないでそのまま教えてもらうことです。

参考：星野欣生『職場の人間関係づくりトレーニング』金子書房 2007 年（5 ページ～14 ページをもとに作成）

♪　チーム学習を始める前に　♪

- ワークシートに記入したこと全てではなく、自分が話したい、話しても良いと思う事柄だけを話しましょう。
- ファシリテーターは「公平な立場」を忘れず、役割（話をする、聴く等）が固定的にならないようにしましょう。
- 話を聴く時は筆記用具を置いて聴くことに専念し、中断するような質問や自分の発言は控えましょう。
- メンバーの痛みをまずは受け止めて、メンバーの良い点を積極的に伝えましょう。
- 仲間内だけで盛り上がらないよう、チーム全体で進行しましょう。
- 否定や非難・反論はしないようにしましょう。誹謗・中傷もいけません。
- チームでの話し合いの内容はどれも正解です。統一見解や結論を出す必要はありません。

♪　ワークの振り返りを始める前に　♪

- 人それぞれが発した内容はその人にとってはどれも正解です。
- 記入できなかった人は、今日は書けなかったという事実を受け止め、また思いついた時に書くようにしましょう。
- 話ができなかった人は、今日は話をすることができなかったという事実を受け止めましょう。
- 授業で得た内容は、自分だけの宝物にしましょう。他の人にむやみに話したりするのは慎みましょう。

困ったときのＱ＆Ａ

Ｑ１．質疑応答の時間はとらなくてもいいですか？
Ａ１．作業手順の説明の後はわからない点がないか確認の時間を取りましょう。また作業中に質問が出された場合はそのつど対応しましょう。

Ｑ２．教員用ガイドの時間通りにワークが進みませんでした。すべての内容を時間内に終わらせなければいけませんか？
Ａ２．まずは学生が自分の中で何かを感じとることに重点を置きましょう。やってみて感じたこと、メンバーの意見で変化が起こった気持ち等を、シートに書き留める時間は確保したいものです。最後の全体シェアリングや、まとめの時間で調整してはどうでしょう。

Ｑ３．セルフワークの最中に、教員は巡回をしてもいいですか？
Ａ３．「他人に見られているかもしれない」といった心配や不安は、安全・安心な場で客観的に自分をみつめることを阻害してしまう可能性があります。
「私は見回ることはしませんので、じっくり自分のことを見つめてください。」と事前に伝えておくのもよいでしょう。
巡回しなくても「見守っているよ。」の視線を送るだけで、効果的に安心・安心な場を提供できることもあります。
しかし、なかなか見つめることが難しい学生、ヘルプサインを出している学生には様子を見にいくことがあります。

Ｑ４．時間内に作業が終わらない学生がいました。どのように対応したらいいですか？
Ａ４．完全に仕上げることが目的ではないので、授業終了後、空いた時間に書き足してもよい旨を伝えます。
予定の時間になったらそこで一旦作業を止め、次のステップに移ります。
チームの成熟度に応じ『時間経過を告げる。時間を区切って告げる。』など、慣れるまで時間管理を促しても良いでしょう。
声掛けをする場合は、個人を指摘することはしないよう留意し、様子を見ながら「～までに終わりそうですか？」「皆さん、～のテーマの発言ができていますか？」等、言い分けても良いでしょう。

Ｑ５．セルフワークでシートになかなか書けない学生がいたら、どう声かけをしたらいいですか？
Ａ５．「“今、書くことができない自分”をありのままに受け止めましょう。」「“書くことがためらわれるのはなぜか？”、“今、心に浮かぶ気持ちは？”など、今現在の自分の状態を書き留めておく、あるいは意識してみましょう。」

Ｑ６．チーム内で発表する際、発表者以外のメンバーがコメントし始め、雑談のように盛り上がってしまいました。
Ａ６．時間が超過しそうだったら「時間内に全員が終わるようにペース配分を工夫しましょう。」と注意するのではなくアドバイスしましょう。

Ｑ７．全体でシェアリングする際、発表者を指名してはいけませんか？
Ａ７．「グループの中でどんなことが話されたか、ほかのグループに話してもいいことについてどなたか聞かせてくれませんか？」、「よく言う。よく聴く。このことでお互いのいい収穫になるんですよねぇ。」などと全体に声掛けをしてみましょう。
指名をしたり、グループを指定したり、順番を決めると、この先指名されなければ発言してはならないという規範になってしまいます。沈黙を恐れず促して待ちましょう。

Ｑ８．教員用ガイド通りに実施しなければならないのでしょうか？
Ａ８．そうではありません。実施者である教員の経験を大事に、その場の様子で変更しても構わないでしょう。

Ｑ９．ワークブックはバインダー形式のようですが、その都度配布しなければならないでしょうか？
Ａ９．ワークごとにシートを配布するように作成していますが、時間等を考慮しながら、学生の自主管理で、バインダーから必要なシートのみ取り出して実施し、終われば綴じることでも結構です。

Q10. 実施時間の確保等で全て行うのは難しいのですが、全部行わなければなりませんか？
A10. ファシリテーションと自己理解については全ての章において導入時に繰り返し必要となる基本のため、実施されることをお勧めします。2 章から 4 章は、必要と思われるところだけでも構いません。

Q11. ワークブックの順番通りに実施しなければ効果はありませんか？

A11. １章の後、2 章は入学後早い段階で実施されると、学生の意識が変わるきっかけになるのではないでしょうか。
4 章のキャリアプランニングも学習が余り進んでいないときに実施されると、学生の目的意識を持って、学習のモティベーションが上がると考えています。

Q12. 分野が違う内容なのでうまくできるかどうか心配です。

A12. 特にケーススタディは、教員が体験された卒業生の事例を書き下ろされると良いのではないでしょうか。
分野に限らずワークブックの教材でも効果はありますが、教員自らの解説は説得力が増すと考えています。

Q13. 授業準備に時間がかかりそうですが…。

A13. 多少時間がかかる事もあるでしょうが、それはどんな分野も最初はそうでしょう。
指導案を事前にご覧いただき、必要に応じ指導しやすいようアレンジしていただければ大丈夫かと思います。

ワークを始める前に

安心・安全・助け合える場の提供

学生と同じ目線で温かさを持って、あるがままの学生の姿を尊重。
机のレイアウト・ニックネームやネームプレートを活用し雰囲気作り。

チーム分け

関係性・個人特性に配慮が必要な場合→意図的に事前編成。
新しい出会いを提供したい→小ゲームでシャッフル。

導入時

毎回基本ルール確認と前回までの流れを振り返る。
NO：誹謗・中傷・暴力・排斥
OK：守秘義務「ここで知り得たことを安易に外にもらさないこと。
　　むしろ、その人の痛みを大事に受けとめることをしてみよう。」
　　オープンマインド「他人の良い点を積極的に伝えよう。」

役割分担

ワーク前に学生主体で分担させてみる。
チームの持ち味を活用しコンセンサスを形成。

ワークの展開

成果物の質よりプロセスへの視点を促す。
「やってみよう→味わってみよう→自分の中で動き出している何かを感じ取ろう。」
「出来栄えより、どの要因(誰の意見)で気持ちに変化が起こったかを考えてみよう。」

効果測定

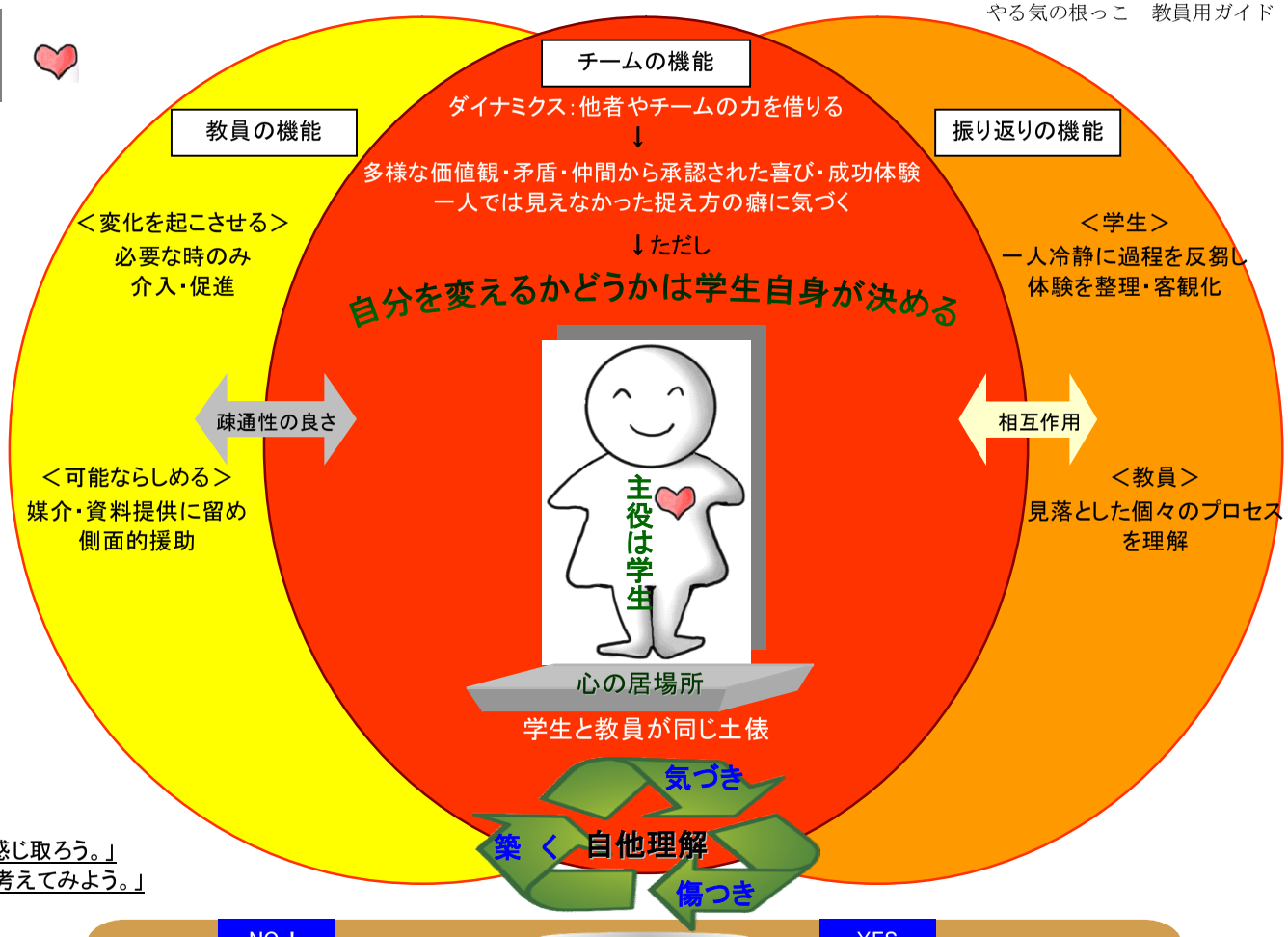
浸透具合を長期的に見守る。
①ワーク時の反応　②学校生活での表情・言動

個別フォロー

葛藤から抜け出せない学生を点検：個別時間を設定し個の埋没を防ぐ。

危機管理

力量を超える問題を一人で何とかしない。
情報共有しリファーのタイミングを逃さない。



NO！	YES
説明調・尋問調 →	「どんな風に感じた?」「どんな気持ちになった?」
指名・発言の無理強い →	消極的学生は「見ているよ」のサインを送る
思惑・期待とずれた発言を否定 →	勇気を労い、親しみと同様に受け留める
先生の感想・判断先行 →	学生のカタルシス促進が先
場に流され偏ったやり取り →	ささやかな呟きにも心を傾け、公平な機会提供
思い通りに変えよう →	自ら輝く、その人らしさを表現から見出す
善悪で審判 →	矛盾も大事に捉え、違いを共に考え尊重する

参考図書一覧（順不同）

□ ＮＰＯ法人　日本交流分析協会『交流分析士２級テキスト』
□ 宮城まり子『21 世紀カウンセリング叢書　キャリアカウンセリング』駿河台出版社
□ 社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座２　心理学理論と心理的支援－心理学』中央法規出版
□ 梅田幸子『あなたの天職がわかる　最強の自己分析』㈱中経出版
□ 星野欣生『職場の人間関係づくりトレーニング』金子書房
□ 原著者:J.L.HOLLAND、日本版著者:独立行政法人労働政策研究・研修機構『ＶＰＩ職業興味検査［第 3 版］手引』発行所:株式会社日本文化科学社、発売所:社団法人雇用問題研究会

やる気の根っこストーリー

自らのキャリア観を自覚し、さらに社会で生き抜く力を意識し身に付けていく。
そんな「やる気」を今後も継続できるように、チームで学び合う構成になっています。

根っこ

第１章：導入編
チーム学習を進めるためのヒント

効果的な話し合いをするためにコミュニケーション学習の目的を確認して、学習方法の共通理解をする。

第２章：自己理解編
自己理解から「なぜ働くのか」の気づきへ

これまでの人生を振り返り、自分のものの考え方や性格・価値観・能力・強み・弱みなどについて知る。

第３章：仕事理解編
仕事に現実味を持ち、就業意識を持つ

「実際に働くこととは？」を聞いたり、調べたりしながら、また、働く人からも声を聴き、互いに知識の共有をはかり体感する。

第４章：仕事選択～未来へ向けて

多様な役割に対する自らの志向性を認識し、その上でキャリアプランを考え、共に学び合う仲間からエールをもらう。

第1章　チーム作業を進める時のヒント

１．教　　材

・『やる気の根っこ』　P2～P5：チーム作業を進めるためのヒント
P48：第１回世界メルヘン大会審査表
P61：チーム作業役割診断シート

・『教員用ガイド』　ゴンベンテスト解答（「ゴンベンな漢字」。チーム数、必要に応じて）

・その他　講義メモ　（人数分）
世界メルヘン大会エントリー作品あらすじ（必要に応じて）
※著作権の関係上、こちらは準備していません。

２．備　　品

ストップウォッチ（教員用）
メモ用紙(裏紙でも可)
筆記用具（個人）

３．指導目標

チーム作業の大切さと、ファシリテーションを意識して円滑に行える心の準備とノウハウを知る。
「ゴンベン」テスト（１５分）

①　チーム作業の楽しさと大切さを実感する
取り組みやすいワークを通じて、「話をする、意見を言う、意見を聞く」ことのトレーニングを行う。チーム作業をする楽しさと大切さを実感する。

②　チーム作業のコツを知る
・共通点を見つけて、親近感を得る
→　自分に自信が持てる
・話し合いの意義を知る
→　「成果」「時間」「満足度」
・ファシリテーターの役割と鉄則を知る
→「プロセス」と「コンテンツ」、メンバーが主役

４．ワーク「チーム作業を進める時のヒント」の流れ　　（90 分バージョン）

★　ポイント

1　この授業の主旨説明（１５分）
この授業の主旨等を説明し、その後アイスブレイクを行う。

2　なぜチーム作業？の説明（１０分）

1 授業の主旨説明
（１５分）
チーム学習

2 なぜチーム作業?の説明（１０分）
講義
社会人基礎力（５分）
↓
アンケート調査説明
（5分）

3 「ゴンベン」テスト（１５分）
セルフワーク
ゴンベンテスト（3分）
↓
チーム学習
ゴンベンテスト（2分）
↓
答え合わせ（１０分）

4 ファシリテーションの説明（１０分）
講義

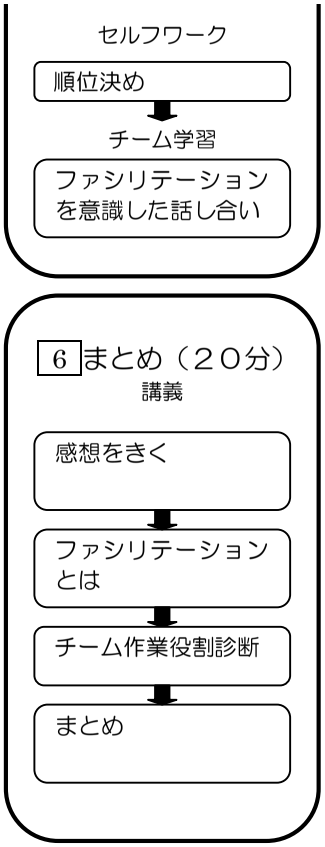
5 世界メルヘン大会
（２０分）
チーム学習
ファシリテーター決め
↓

3　「ゴンベン」テスト（１５分）
一人で作業の後、チームで作業
★　チーム力の大切さを実感する

4　ファシリテーションの説明（１０分）

5　世界メルヘン大会（２０分）
★　実際にファシリテーションを意識して、チーム作業に取り組む
★　全員参加の楽しさと大切さを実感する

6　まとめ・復習（２０分）
メルヘン大会の振り返り（チーム作業）
ファシリテーションの復習　（個人作業）



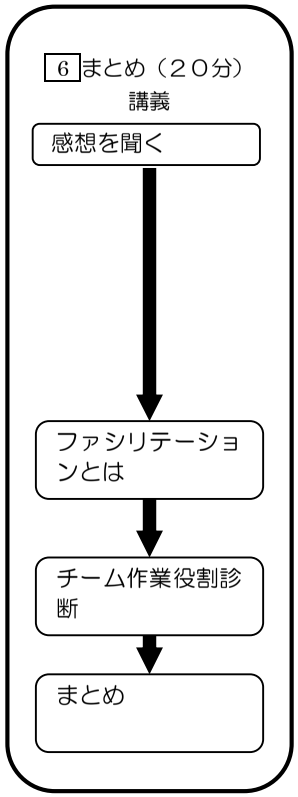
５．授業の展開　（９０分）

	学習内容および手順	教員の発問および留意点	形 態
1 授業の趣旨説明（１５分）	1 授業の主旨設営（１５分） １．カリキュラム全体における この授業の主旨説明。 ２．テキストの配付と、「はじめに」「楽しくワークをするために♪」の解説。 ３．INDEX のページを見て、全体の説明をする。	１．教員はそれぞれの学科のカリキュラムの中での本授業の位置づけ、なぜこの授業をするに至ったのか、なぜこのテキストを選んだのか、などの説明を行う。 これは、各々の学校や学科で違いがあると思われるが、教員の想いを率直に伝える事を意識する。 「執筆にあたり」を読み、たとえ専門性の高い学科であったとしても、キャリア教育が必要であるということを、自分の言葉で学生に伝える。 ２．教員が１人で読むのではなく、このタイミングから学生主体に授業を進めるようにちょっとした声掛けも含めて導入していく。 例えば、 ×→「一文ずつ読んでください。」 ○→「一文ずつ読んでみましょうか？○○さんから、お願いできますか？」「次はどなたがやって下さいますか？」	
2 なぜチーム作業？の説明（１０分） 講義 社会人基礎力（５分） ↓ アンケート調査説明（５分）	2 なぜチーム作業？（１０分） 手順 1～2（５分） １．社会人基礎力について P.2 ３．アンケート調査説明（５分） P.3	１．（説明例） 「このキャリア形成の授業では、チームでの作業を中心に進めていきます。ではなぜ、キャリアという個人的な課題に対するテーマが、チーム作業の中心になるのでしょうか？」 ２．社会人基礎力の１２の能力要素について（説明例） 「社会人基礎力とは、「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」のこと。平成１８年に経済産業省の研究会が企業へのアンケート調査により研究をして、発表しました。 ３つの能力のうち、「チームワーク」の能力要素が６項目と全体の半分をしめていますので、重要視されているのがわかりますね。」 ※チームワークが大切であるということを強調 ３．日本経済団体連合会 2008 年度・新卒採用に関するアンケート調査について（説明例） 「これは、経営者が新卒採用の専攻に当たって重要視している項目についてのアンケート結果です。ここでもやはり、チームワークにつながる「コミュニケーション能力」や「協調性」が重要視されていることがわかります。 ところで、コミュニケーション能力の中でも皆さんが苦手意識を持つ、「リーダーシップ」などの値がそれほど高くないことに気がつきますか？ コミュニケーション能力と言うのは、決して「人前で話しをする」「リーダーシップを発揮して仕切る」ことだけではありません。	講義

		「私はコミュニケーション能力が低い」「苦手」と思っている人は、実は誤解しているのではないでしょうか？ 今日の授業を通じて、チームワークの大切さと、チームでの作業で上手にコミュニケーションをとる秘訣をお伝えします。この授業以外でも、他の授業や学生生活の中で、意識して使ってみてください。」	
3「ゴンベン」テスト （１５分） セルフワーク ゴンベンテスト （3分） ↓ チーム学習 ゴンベンテスト （2分） ↓ 答え合わせ（１０分）	3ゴンベンテスト（１５分） 手順 1～3（３分） １．机の上の片付け 2.各自、ゴンベンのつく漢字を書き出す 3.各自、書けたゴンベンのつく漢字の数を数える ４．４名１組のチームで、ゴンベンの漢字を書き出す。（２分） 手順 5～7 （１０分） 6.答えあわせ。少し時間をとる。	1.「突然ですが、漢字テストを行います。机の上には紙と筆記用具のみを用意してください。」 2.「ではこれから１分間で、「ゴンベン」の漢字を、ひとつでも多く紙に書き出してください。他の人と相談をしてはいけません。ではスタート」 3.「どうですか？どれくらいかけましたか？」 （「10 個以下」「10～15 個」と挙手させてもよい） 4.「では次に、先ほどの４人チームに集まってください。新しい紙に、今度は４人で相談して、同じくゴンベンの漢字をひとつでも多く書き出してください。先ほどの紙を見てもかまいません。ではスタート」 5．セルフワークよりも短く 40 秒程度で「ストップ。先ほどの数と比べてどうですか？ではここで、答えあわせをします。」 6.（答えあわせは、プロジェクターを使用するか、もしくはプリントアウトしたものを配ります。） 「答えあわせをしてください。どうですか？個人ではいくつ回答できましたか。また、チームではいくつ回答できましたか？」 （ここで、個人とチームどちらが多かったかを挙手してもらい確認します） 7.「多くの方が（全員が）、チームで作業をしたほうが、時間が少ないにもかかわらず、成績がよかったと思います。これが、「社会が求めるチーム力」です。これから残りの時間で、チーム力を高めるための効果的なコミュニケーションのとりかたと、個々の能力を発揮するための手法を学んでいきましょう。」	セルフワーク ４人１組
4ファシリテーションの説明（１０分） 講義 ファシリテーションとは ↓	4ファシリテーションの説明 （１０分） 手順 1～3（５分） １．ファシリテーションの説明 ２．ファシリテーションとは	１．ファシリテーションの説明 「これからお話しする内容は、リーダーのためのものではありません。もちろんリーダーがこれらの要素を持っている場合もありますが、基本的にトレーニングで誰もが身につけることができるコミュニケーションの方法です。これからそのコツをいくつか紹介します。この授業に限らずチーム作業をするときには、是非意識してその手法を試してみてください。」 ２．ファシリテーションとは 「これからお話しするのは、 『企業内の会議の場などで、発言を促したり、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認したりする行為で介入し相互理解を促進し、合意形成へ導き組織を活性化（協働を促進）させる手法・技術・行為』 についてです。」 「ここではこの文章を覚えることが目的ではなく、『会議』『活性化』『参加者の認識の一致』というキーワードを覚えておいてください。」	講義

話し合いの意義	３．話し合いの意義 P.3	３．話し合いの意義 「ではここで、話し合いの意義、つまり有意義な話し合いについて考えて見ましょう。皆さんがイメージする、『有意義な話し合い』とはどんなものですか？」 （時間があれば、隣同士で話しあってみましょう） 「今回は、話し合いの意義とは『成果』と『時間』と『満足度』の３つと定義します。つまり話し合った結果である『成果』がないと意味がないですし、その成果を導くためにエンドレスに時間がかかってしまっても困ります。そして参加者がその話し合いについて『満足している』というのも、重要なポイントです。この３点を意識して、話し合いを進めていくことを先ず心がけてください。」	
ファシリテーターの鉄則	手順 4～5（５分） ４．ファシリテーターの鉄則 P.4	４．ファシリテーターの鉄則 「実はこの手法を本格的に学ぼうとすると、企業研修でも２日や３日かかるコースです。今回は基本的なこととして、２つの鉄則をご紹介したいと思います。」 「ひとつは、話し合いの内容を『プロセス』と『コンテンツ』に切り分けるということです。 プロセスとは、話し合いの進め方であり、ムードであり、話し合いの参加者、特に中心的に仕切る人はそれに対する働きかけをします。 コンテンツとは、話し合いの内容に関する情報や知識、経験で、仕切る人は、これについては他の参加者に任せます。」 「もうひとつは、『話し合いの主役は仕切り屋ではなく他の参加者である』ということです。参加者が自分で『気づいた』『解決した』『決定した』という気持ちになることが大切で、決して中心的に仕切っている人が、解決したり決定したりするわけではありません。 また、発言していない人がいないか気を配ったり、難しいとは思いますが、一人の人だけの話が長かったりする場合はうまくストップさせるのもの仕切り屋の大切な役割です。もちろんだれかの意見に肩入れをしたりするのもルール違反です。そためにも仕切り屋は、『公平な立場』であることを、常に意識していてください。」	
ファシリテーターのプロセス	５．ファシリテーターのプロセス P.5	５．ファシリテーターのプロセス 「では、先ほど出てきた『プロセス』について、もう少しお話ししましょう。 話し合いの基本的なプロセスは、『準備』『広げる』『まとめる』『終了』になります。」 「準備するとは、場をつくり、次の話につなげることで、必要に応じて先ほどのようなアイスブレイクをしたりします」 「準備の段階で、参加者の意識を高めるためにも、たとえば時間を管理してもらうタイムキーパーや、 わかりやすく記録をしてもらう書記など、参加者に役割をお願いすることも大切です。」 「広げるというのは、いろいろな手法を使ってアイデアをたくさん出してもらうことであり、意見を受け止めることが大切です。たとえばKJ法といった、ポストイットなどを使った意見の出し方や、ブレインストーミングといった意見の出し方の手法を、機会があったら学び使ってみましょう」 「まとめるというのは、出された意見をまとめ、整理をすることです。」 「そして、終了のプロセスで、結果を出し、分かち合います。」	

5 世界メルヘン大会 （２０分） チーム学習	5 チーム作業 世界メルヘン大会（２０分） 手順 1～3（５分） １．６人程度のチームになる P.48	１．「それではこれから６人のチームになり、ワークをしていただきます。」 「今から皆さんは、名誉ある「第１回世界メルヘン大会」の審査員に任命されました。これから候補作品と用紙をお配りします。第１回の優勝～3 位までを、話し合いのもと決定し発表していただきたいと思います。」 世界メルヘン大会審査票とエントリー作品のあらすじを準備する。 作品については、学生が知っていると思われる話を６話ほど、簡単に紹介をする。インターネットで「童話　あらすじ」といったキーワードで探すと、簡単にみつかるので、そこから選ぶとよい。 例：桃太郎、赤ずきん、さるかに合戦、北風と太陽、みにくいアヒルの子、白雪姫、マッチ売りの少女、人魚姫、ヘンゼルとグレーテル等から６話程度 またこのワークは、「最近の事件」「学校の６大ニュース」といった身近の話題に変えてもよい。	６人１組
ファシリテーター決め	２．チーム内で、ファシリテーター役を決める。	２．「まず、チームで中心的に仕切る人を決めてください。今回のしきり係は、人数分の用紙を取りに来てください。」	
セルフワーク 順位決め	３．セルフワーク。文章を読み、１位～３位までを決める	３．「3 分間文章を読み、個人の順位を決めてください。」	セルフワーク
チーム学習 ファシリテーションを意識した話合	手順 4～5（１０分） ４．チーム作業 ５．一度手を止め、こうし教員の話を聞く	４．「ではチームで 10 分間、順位を決めるための話し合いの時間を用意します。今日教わったことをみんなで意識して、話し合いをしてください。」 ５．（4 分程度時間がたったら） 「皆さん、一度話し合いを止めてください。 しきり係の人は、準備の段階で役割分担（タイムキーパーや書記、発表者）を決めていましたか？なるべく周りの人に頼み、参加意識を高めていきましょう。 また、チーム全員が議論に参加していましたか？参加できていない理由はなんでしょうか？ それと、しきり係自身がコンテンツに介入しすぎていませんか？主役は他の参加者です。どうしても言いたいときは「ちょっと意見を言ってもいいですか？ 」といった、発言方法を学んでください。 すでに話し合いが終わってしまったというのも、時間が有効活用されていないということになります。残り時間を４分としますので、時間の有効活用も意識してください。」	６人１組
結果発表（５分）	６．結果発表（５分）	６．全体を通して 10 分たったら、作業をやめ、結果発表を楽しく行う。	



6 まとめ （２０分） 手順 1～2（１０分）	１.「皆さん、メルヘン大会の審査はいかがでしたか？楽しく参加することができましたか？他愛のないワークでしたが、自分の意見をきちんと伝えたり、発表したりできたでしょうか？」（感想などを聞いてみる） ２.「これから、皆さんにこの授業／テキストを通じていろいろなワークをしていただきます。キャリアについて考える場合は、今回のメルヘン大会のように、気軽に自分の意見を言ったりすることは難しいかもしれませんが、最初に紹介したとおり、社会が求めるチーム力の強化やコミュニケーション能力を高めるトレーニングとしても、これからは積極的にチーム作業に参加してください。」 「最後に、今日学んできた、チーム力を上げるために、効果的な話し合いをするコミュニケーション手法を、ファシリテーションと言います。また、『ファシリテーション』を意識して話し合いを仕切る人のことを、『ファシリテーター』と言います。」	講義
手順 3～4 （１０分） ３．ファシリテーションとは P.5	３.「ファシリテーションとは、 『企業内の会議の場などで、発言を促したり、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認したりする行為で介入し相互理解を促進し、合意形成へ導き組織を活性化（協働を促進）させる手法・技術・行為』です。 『会議』『活性化』『参加者の認識の一致』 話し合いの意義は『成果』『時間』『満足度』 そして『プロセスとコンテンツ』『話し合いの主役は参加者全員』『ファシリテーターは公平な立場で』というキーワードを覚えておいてください。」	
４．チーム作業役割診断シート P.61	４．時間が余っていたら、診断シートの記入の説明をする。 「今日使ったワークシートの右上に日付を記入し、リングファイルに綴じて終わります。」	

【ゴンベンテストの解説】

ゴンベン以外でも、「サンズイ」「ニンベン」でもなんでも使えます。
解答はウィキペディア等で、用意することができます。
ウィキペディア「偏」:
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%81%8F
アイスブレイク代わりに、活用することも可能です。

このワークでは、終了後に、時間があれば学生にいろいろと気づきを発表してもらうといいかもしれません。
・個人よりもチームの方が高くなる
・個人よりも、短い時間で成果を上げることができる
・チームで作業をするときに、自然と「書くひと」「仕切る人」「情報を提供する人」と役割分担をしている

実際に社会で求められているのは、個人の能力だけではなく、
チームで作業をしたときに、どれだけパフォーマンス(成果)を出せるかということだということを説明し、
グループワークを通じて、チーム力を高めるトレーニングの有効性を説明してください。

ゴンベンな漢字

言葉や話しかける動作に関する漢字に使用（常用漢字数 56）

常用漢字： 計 訂 記 訓 託 討 許 訟 設 訪 訳 詠 詐 詞 証 詔 診 訴 評 該 詰 誇 詩 試 詳 誠 話 語 誤 誌 説 読 認 誘 謁 課 諸 請 諾 誕 談 調 論 諮 謀 諭 謡 謹 謙 講 謝 識 譜 議 護 譲

主な表外字： 訃 訊 訛 訝 訣 訥 詛 註 詭 詣 詢 詮 詫 誅 誂 誑 誦 誼 諏 諄 誰 誹 諒 諳 謂 諧 諤 諫 謔 諺 諜 諦 諷 諡 謗 謎 謳 謬 譚 讃

第2章　第1節「過去を振り返ろう！」

１．教　　材　・『やる気の根っこ』　P6～P9：過去を振り返ろう
・『教員用ガイド』　ライフイベント（記入例）

２．備　　品　ストップウォッチ（教員用）

３．指導目標　自分が将来の方向性を決定する上で、どんな視点で考えているのか。
過去を思い出して、自分が頑張ったことや嫌だったことを振り返る。更に、他者に伝え、そして聴くことで、自分にとって大切に思うことや嫌だと思うことについて気づきを得る。

◎教員としての大切な価値観
・経験には意味がある。　・生き甲斐、働き甲斐はあるはず。　・人生はダイナミックだ。　・人生は必然の連続だ。

４．ワーク「過去を振り返ろう」の流れ　（９０分バージョン）

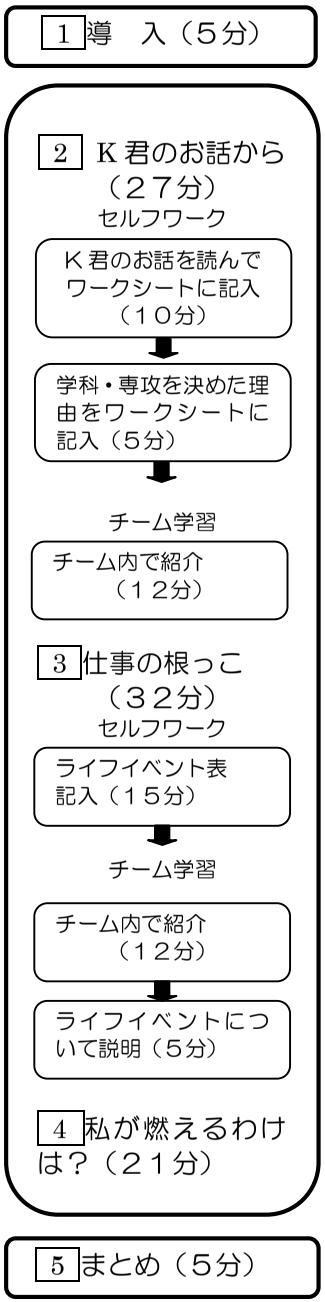
★ ポイント

1　導入（５分）
★　前回のチーム学習を振り返り、その場の雰囲気を大切に話ができるよう促す。

2　K君のお話から　（２７分）
説明からセルフワーク
★　K君のストーリーをベースに、自分の過去を振り返りどのような視点で学科・専攻を決めたのかを考える。
チーム内で発表
★　同じ学科・専攻であっても、視点がそれぞれ違うことを気づかせる。キャリアも人それぞれ違う。

3　仕事の根っこ　（３２分）
説明からセルフワーク
★　ライフイベント表の年齢を記入する欄は学年でもよい。また、同じ年齢に複数のイベントを記入してもよい。
★　プラスマイナスの気持ちの揺れを点で記入し線で繋ぐことにより、イベント間の詳細を想い起こす。
チーム内でライフイベントの紹介
★　どうしても話したくない内容は話さなくても良い。またはライフイベント表を記入した感想でも良い。

4　私が燃えるわけは？（２１分）
★　過去を振り返ることにより、自分の視点を知る。



5　まとめ（５分）

★　人生・価値観は人それぞれであり、キャリアも人ぞれぞれである。キャリアに良いも悪いもない。

５．授業の展開　（９０分）

	学習内容および手順	教員の発問および留意点	形 態
1 導　入（5分）	1 導入（５分）	1．「第１節「過去を振り返ろう！」は、皆さん一人ひとりの小学校あたりから今に至るまでを思い出していただこうと思います。前回のチーム作業を思い出し、話し合う時間では、その場の雰囲気を大切にして参加しましょう。」	講義
2 K君のお話から（２７分）セルフワーク K 君のお話を読んでワークシートに記入（１０分） ↓ 学科・専攻を決めた理由をワークシートに記入（5分） ↓ チーム学習 チーム内で紹介（１２分）	2 K君のお話から 1．Ｋ君のお話を読む（５分） P.6 2．2 つの問いについてワークシートに記入（５分） P.7 3．自分の志望した理由は？（５分） 4．4～5 人のメンバーで一人ずつ、自分の専攻理由の話をする（１２分）	1．「それでは、６ページのＫ君のお話を各自読んでみましょう。」 2．「読み終わりましたら、次ページの「Ｋ君が進路を決めた理由」と「Ｔさんの言葉で、気持ちの変化が生まれたのですが、Ｋ君はどんなことに気づいたのでしょうか」この２つの問いについて、各自思ったことを書いてください。」 「5 分程度の時間をとります。それでは始めましょう。」 （教室を見渡して進捗状況を見ること。時間は数分前後させてよい。） ＊ペンが止まっている人には、近くによって、「今どんな感じですか？」「私がアドバイスできることありますか？」などと声をかける。 3．「次に、今貴方が学んでいる学科・専攻を決めた理由は何でしたか。皆さん一人ひとり思い出しながら書き出してみましょう。どんなきっかけでどんな思いだったのでしょうか。5 分程度で書いてみましょう。」 4．チームを作る。メンバーは４～５人で作ること。時間も考慮して、先生が分ける。 「一人 2 分程度です。順番は話をしたい方から、「それでは私が」と言って話しをしてください。時間は自分で管理しましょう。話をしている間は、他の方は優しく注目して静かに聴きましょう。 終われば、他の方へとすすめてください。 チームによっては、早く終わったりするかもしれませんが、他のチームが終わるまではもう一度メンバー内でお話をしていてください。また、最後に７ページの気づきを書いておいても構いません。」 ＊チーム間の進捗状況を巡回しながら確認しましょう。場合によっては、時間変更を行い、気づきの記入を進めて、時間内に終わるように助言してください。 ＊チーム内で本題と異なる話が進んでいるようであれば、「今チームはどんな状態ですか」「時間内に終わりそうですか」「チームの雰囲気はどうですか」などと質問形式で問いかけてみよう。	セルフワーク チーム学習 4 人 1 組
3 仕事の根っこ（３２分）セルフワーク ライフ・イベント表記入（１５分）	3 仕事の根っこ 1．ライフ・ベント表を記入（１５分） ライフイベントを振り返り、その時の気持ちをライフラインとして表現する P.8	1．「小学校入学時あたりから現在に至るまでの出来事（ライフイベント）と年齢を書きます。また、自分の気持ちの振れ（プラスマイナス）の程度を点で記入し、その点を一本の線として、つなげていきます。」 「記入する時間は１２分程度が目安です。 自分はどのようなときに活力が高まるのか、どのようなときにへこんでしまうのか、自分史の事実から気づくこともあるでしょう。」 ＊見本として、例を教員自身が、説明しながらライフイベント表を板書するとよりわかりやすい。「ライフイベント表を書き終えた方は、記入して思ったことを感想欄に書いておきましょう。」	セルフワーク

チーム学習 チーム内で紹介 （１２分）	２．チームで簡単に一人ずつ自分のライフイベントを紹介する （１２分）	２．左右前後の4名程度、顔をあわせて、全員が自分のライフイベント表を話しができるあるいはしてもよいと思う範囲で紹介する。 「4人のメンバーになりましょう。全員が一人2分程度で自分のライフイベントを紹介してください。その際、特に自分が一番プラスに振れたところはどんな時で何がそう思えたのか、逆にへこんだのはどんな時で何がそう思えたのかを、話してもよいと思うことをお話しましょう。他のメンバーは、話を聴くときは、質問や自分の話をすることは避けましょう。それでは、話をしたい方から順にお話を開始してください。2分前には合図を一旦しますので、時間内に全員が話し終えるように各自で時間配分をしましょう。それでは、始めてください。」 「２分前です。全員が紹介しましたか？」	チーム学習 ４名１組
講義 ライフイベントについて説明 （５分）	３．ライフイベントについて、説明をする（５分）	３．全体を見渡した上で、 「時間になりました。それでは、前を向きましょう。ライフイベント表を書くことで、人によっては次のような気づきがあったかもしれません。」 ・「へこんだことや良かったと思えたことの「理由がわかる」ことによる安心もうまれたりします。」 ・「気持ちが落ち込んだときのイベント、あるいは満足していたときのイベントを見つめてみると、自分が生きていく上で、働く上で大切にしているものは一体何かが浮き彫りになってきませんか。これが分かっていると不測の事態におかれても明るい光や解決の糸口を見つけられることが多いようですよ。 ここでも個人個人が違う価値観で生きていることが互いに分かったことと思います。ポジションにこだわる自分であったとか、自分らしさに重点を置く自分であったとか、役割を担うのを大切にする自分であったとか、自由を追い求める自分であったとか。人というのは自分の根っこが分かってくると安心できたり、冷静になれたりするようですね。ただ、どうであれ、自分らしさというのは是非大切にしていただきたいものです。」	講義
4 私が燃えるわけは （２１分） セルフワーク ライフイベントを振り返り、書き出す （２１分）	4 私が燃えるわけは? １．ライフイベント表を振り返りながら、一番燃えてたことについて、書き出す（８分） P.9 ２．ライフイベント表を振り返りながら、一番嫌だったことについて、書き出す。（８分） ３「燃える」ために必要な条件とあってはならない条件を書き出す。（５分）	１．「次に、ライフイベント表を振り返りながら、これまでの人生で一番夢中になったり燃えたりヤッターと感じたのは、いつ頃で、どんなことをしていた時でしたか。その時は思ったことや感じたこと、考えたことも書き出し、どうして燃えたのかを書きましょう。」 ２．「これまでの人生で一番嫌だったり落ち込んだりしたことは、いつ頃で、どんなことをしていた時でしたか。その時は思ったことや感じたこと、考えたことも書き出し、どうして燃えなかったのかを書きましょう。」 ３．「ライフイベントを書き、「燃えるわけ」と「燃えないわけ」を書いてみて、燃えるために自分にとって必要な求める条件とあってはならない（無い方がよい）条件を書き出しましょう。」	セルフワーク

5 まとめ（５分）

5 まとめ（５分） 第１節を振り返り ＊指名をせずに発表してもらいたい旨を伝えて、挙手した方の発表を期待する。	１.今日のセルフワークとチームでの話し合いを通じて、時間をみて、感想を発表してもらう。 ２.セルフワーク中の記入に様子やチームの話し合いから、留意事項を提案として伝える。 （説明例）「今日はなかなか記入できなかった方もいるでしょう。今日はかけなかったという事実として、また気になったときに書けばいいでしょう。」 「チームでの話しあいでは、今日の内容はどれもその人にとっては正解です。いまは話せないということもあるんだ。と受け入れましょう。」 ３.「今日使ったワークシートの右上に日付を記入し、リングファイルに綴じて終わります。」	講義

ライフイベント（記入例）

年齢	その時の出来事	− ← 気持ちの振れ → ＋
3	幼稚園通いが始まる	
4	初めてのお遣いで褒められる	
6	小学校入学	
8	仲良しの級友が転校	
10	ペットの犬が亡くなる	
10	少年サッカーチーム入団	
11	レギュラー選抜から漏れる	
11	塾通いが始まる	
11	校内合唱祭でクラスが優勝	
12	中学校入学	
12	合唱部入部	
13	学園祭実行委員	
15	楽しみだった修学旅行入院で欠席	
16	高校受験第一志望校不合格	
17	ボランティア活動老人ホーム訪問	
17	後輩の女子から告白される	

第2章　第2節 「自分を知る手がかり」(180 分用)

1．教　　材　・『やる気の根っこ』　P11：私の「心の四つの窓」
P12：「質問の例」
P13：「今日のまとめ」
P49～51：「ジョハリの窓から学ぶこと」
P63：カード（切り分けて準備）
・『教員用ガイド』　「カード」記入例（掲示用／必要に応じて拡大）
私の「心の四つの窓」記入例（掲示用／必要に応じて拡大）
「今日のまとめ」掲示用（掲示用／必要に応じて拡大）

2．備　　品　ストップウォッチ（教員用）
赤・黒ボールペン、マーカーペン（個人／事前に用意するように指示）

3．指導目標　自他から見た自己を「四つの窓」に分けて検討し、自己理解と人間関係改善について考える。

①　心地よい時間を作る
チーム作業で、「質問される」ことの心地よさを実感し、緊張感がほぐれ、場が和み、仲間同士が打ち解ける快い時間を作ることができる。

②　自分について発見する
・自分が思っていたことと、他人が思っていたことが一致してうれしい
→　自分に自信が持てる。
・自分が思っていなかったことを他人が思ってくれることに驚きがある
→　認められ、うれしい。
・自分は思っていても、他人には伝わっていなかったことに驚きがある
→　意外だなぁ、もっと表現してもいいかもしれない。
・自分にも他人にも発掘されていない未知の可能性の部分もあるということ。
→　出会っていない自分がいるらしい。

③　「自己成長」について学ぶ
・私たちは、他者との関わりの中で生きている。自分ひとりでは、本当の自分のことはわからないものだ。私たちは自分のことを聴いてくれる人、自分に伝えてくれる人と共にあって成長するのであり、他者は自分が成長するための大切な存在である。
・自己成長のためには「開かれた窓」を大きくすることが必要であるが、そのためには人の話や意見に素直に謙虚に耳を傾け、また自分の意見も素直に伝える態度が大切であることを学ぶ。それは、自分が関わっていく全ての人々とのコミュニケーションの核となるものである。
・まず、お互いが「聴き合う」ことから始めよう。

1 導　入（5分）

2 手順の説明とワーク（４０分）
チーム学習
資料を使ってワークの準備（１０分）
↓
質問とカード記入（３０分）

3 集計（１５分）
セルフワーク
カード集計（５分）
↓
ワークシート「私の「心の四つの窓」」に転記（１０分）

4 振り返り(15分)
講義
窓の名前の記入（１０分）
↓
セルフワーク
感想をワークシートに記入（５分）

5 振り返りの発表（１５分）
チーム学習
チーム内で発表（１０分）
チーム代表が発表（５分）

４．ワーク「自分を知る手がかり」の流れ　(180 分バージョン)

★　ポイント

1　導　　入（５分）　　「自分はどんな人？」

2　手順の説明とワーク（４０分）
　５人チーム×５の場合
　　準　　備　　１０分
　　（質問　５分＋記入１分）×５人＝３０分
★　ワークを楽しむ。

3　集　　計（１５分）

4　振り返り（１５分）
★　自分に気づいて書く。

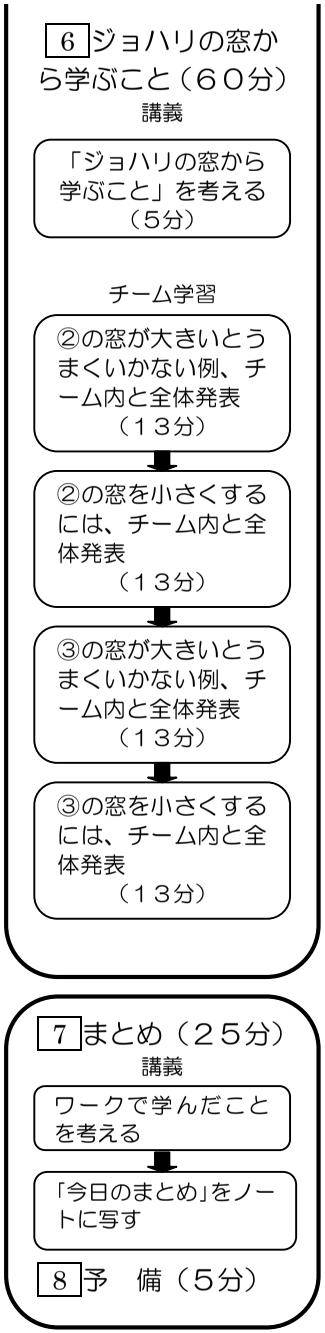
5　振り返りの発表（１５分）
★　聴き合って、他人の気づきも共有する。

～　休憩　～

6　ワークの意義を考える（６０分）
「ジョハリの窓から学ぶこと」　「やる気の根っこ」Ｐ４９～５１

7　まとめ（２５分）
★　ワークの意義を考える。

8　予備・・アンケート実施など・・(５分)



５．授業の展開　（１８０分）

1 導　入（5分）

2 手順の説明とワーク（４０分）
チーム学習

資料を使ってワークの準備（手順１－６）（１０分）

学習内容および手順	教員の発問および留意点	形 態
1 導入（５分） 1．隣同士で、相手に自分の性格について話す。	1．「自分はどんな性格ですか？隣同士で、自分の性格を２つ言ってみてください。」 （例として、教員が自分の性格を２つ言う。優しい、短気、優柔不断など）） 「相手に自分の性格を伝えられましたか？ 自分のことは知っているようで、改めて人に伝えようとすると意外と知らないものですね。」 「今日は、『自分を知る手がかり』のワークをやってみましょう。」	チーム学習 2名１組
2 手順の説明とワーク（４０分） 1．５名１組のチームを作る。 ＊決められたチームを認識する。	1．「それでは、まず５名のチームを作りましょう。」 ＊机の近い５名を１チームにする。	5名１組
2．使用する教材を確認する。 P.10-12 ＊カード５枚　P.63 ＊「私の『心の四つの窓』　P.11 ＊質問例　P.12	2．「これから『やる気の根っこ』の P11, 12 と切り分けておいた P63 のカード５枚を使います。」	
3．自分のカードに自分のイメージ５つを選び、赤ボールペンで〇を付ける。 時間をおかずに、直感で記入する。	3．「5 枚のカードのうち 1 枚に自分の名前を赤ボールペンで 書いてください。そして自分のイメージを 1～10 の項目から５つ 選び、そのカードに赤ボールペンで〇をつけましょう。深く考え込まず、直感でつけてください。記入したら、カードを伏せておきましょう。」	
4．他の 4 枚のカードに、黒ボールペンで自分の名前と他の 4 人の名前を 記入する。	4．「次に、他の 4 枚のカードに、自分の名前と 4 人のメンバーの名前を 黒ボールペンで記入しましょう。」	
5．4 枚のカードと P12、黒ボールペンを持って、向い合える場所に移動し、輪を作る。	5．「4 人の名前の入った 4 枚のカードと P12、黒ボールペンを持って向い合える場所に移動し、チームごとに輪になってください。」	
6．最初に（親）になる人を決める。	6．「各チームで、じゃんけんで最初の（親）を決めてください。」	

質問とカード記入 （手順７－１０） （３０分）	７．（親）の名前を書いたカードを準備し、（親）に質問を始める。 ＊(他のメンバーから（親）への質問５分＋カードへの記入１分)×5 回＝30 分 ＊時間を守る ＊直観で記入し時間をかけない。 質問のやりとりで 心地よい時間を作る １０．自分の席に戻る。	７．「これから（親）に対して、（親）の隣の人から順に１問ずついろいろ質問をしてください。質問時間は 5 分間です。自由に質問をして構いませんが、質問がとぎれたら、P12 を参考にしましょう。女性の年齢など プライバシーに触れる問題は避けましょう。また『あなたは人生をどう思いますか？』など、長すぎる答えになるような質問も避けましょう。自分が答えたくない問題はパスしてもかまいません。 では、始めて下さい。」 ８．「それでは、今の質問タイムでの、あなたが感じた印象を項目の中から 5 つ選び、黒ボールペンで〇をつけましょう。記入をしたら、(親)にカードを伏せて渡してください。」 ＊時間を取らないように促す。 ９．「では、今度は（親）の右隣の人が（親）になります。 同じように、4 分間、質問をして、カードに 記入してください。」 ＊チーム全員が順番に同様の手順で（親）をやる 。 ＊5 人全員が終わったことを確認する。 １０．「自分の席に戻ってください。」	
3 集計（１５分） セルフワーク カード集計（5分） ワークシート「私の「心の四つの窓」に転記（１０分）	3 集計（１５分） １．カードの集計をする。 ＊各自が勝手に作業を進めないで、指示を守る。 ＊項目ごとに集計する。 ２．集計結果を P11 に転記する。 ①赤ボールペンで〇を転記する。 ②数字を転記する。 ③窓ごとにマーカーを引く ④マーカーの項目を横に書く。 ＊教員の説明に合わせて、4 つの窓の意味を考えながら記入していく。	１．「これから、全員一斉にカードの集計をしていきますので、私の手順に合わせて進めてください。」 「集計結果に良い、悪いはありません。」 ＊「カード記入例」（拡大版）を掲示する。 「自分が赤〇をつけた自分のカードの右端に、他の4人から〇をつけてもらった数の合計を（１）～（１０） までの項目ごとに記入します。合計の数は0～4になります。」 ２．「P11 を用意しましょう。」 ＊私の「心の四つの窓」記入例（拡大版）を掲示する。 ＊意味がわかるように説明しながら、ひとつずつゆっくり進めていく。 ①「まず、4 つの窓すべてに、赤ボールペンで自分が赤〇をつけた番号と同じ番号に〇をつけます。」 ②「次に、他の 4 人から集計した数を４つの窓すべての番号の横に記入します。」 ③④「次に、①の窓で、赤〇がついていて、つまり自分はそう思っていて、しかも他人もそう思ってくれたところ（人数が０以外）にマーカーを引き、その項目の言葉（例：観察力がある）を窓の中に記入します。」 「②の窓で、赤〇はついていなくて、つまり自分はそう思っていなくて、しかし他人はそう思っているところ（人数が０以外）にマーカーを引き、その項目の言葉（例：明るく楽しい）を窓の中に記入します。」 「③の窓で、赤〇はついていて、つまり自分はそう思っていて、しかし他人はそう思っていないところ（人数が０）にマーカーを引き、その項目の言葉（例：我慢強い）を窓の中に記入します。」 「④の窓で、赤〇がついていなくて、つまり自分はそう思っていなくて、しかも他人もそう思っていないところ（人数が０） 窓の中に記入します。」 ＊全員が記入できているか確認をしてから次に進める。	セルフワーク

4 振り返り（15 分） 講義 窓の名前の記入 （１０分） ↓ セルフワーク 感想をワークシートに記入（5分）	4 振り返り（１５分） 1.「四つの窓」には、名前がついていることとその特徴を知り、P11 に窓の名前を記入する。 ①の横に「開かれた窓」と記入する。 ②の横に「気づかない窓」と記入する。 ③の横に「隠している窓」と記入する。 ④の横に「未知の窓」と記入する。 2. 気づきや感想を P11 に記入する。 ＊自分の気づきや感想、自分の窓の大きさで気づいたことを書く。 自分の気づきが一番大切	1.「P11 の記入が終わったようですので、 四つの窓の表すものを簡単に説明します。四つの窓にはそれぞれ名前がついています。」 「①の窓は『開かれた窓』と言います。自分も他人も知っている項目です。」 「②の窓は『気づかない窓』です。自分は知らないが、他人は知っている項目です。」 「③の窓は『隠している窓』です。自分は知っているが、他人は知らない項目です。」 「④の窓は『未知の窓』で、自分も他人も知らない項目です。」 2.「それでは、このワークをおこなっての感想を P11 に記入しましょう。」 「自分が思っている項目と他人が思っている項目は一致しましたか？あるいは、そうではありませんでしたか？いろんな気づきがあったと思います。その気づきや感想を自由に書いてください。また、窓の大きさはどうでしたか？どの窓が大きく、どの窓が小さかったですか？この２つの観点で書いてください。」 ＊この時間をたっぷりと取り、一人ひとりの気づきを感じることが大切。じっくり取り組ませる。	講義
5 振り返りの発表 （１５分） チーム学習 チーム内で発表 （１０分） ↓ チーム代表が発表 （5分）	5 振り返りの発表（１５分） 1. 各自がワークをやって気づいたことを発表する。 ＊ワークを行った 5 名 1 組のチームで再度、集まる。 （1 人 2 分×5 回＝10 分 ） 2. チームの代表が発表する。 (1 チーム 1 分× 5 チーム＝5 分) 聴き合って、他人の気づきも共有する 3. 自分の席に戻る。	1.「5 名のチームで、このワークを通して気づいたこと、感じたことを発表し合いましょう。ワークをやったメンバーで再度、集まってください。」 2.「各チームの代表から、メンバーにどんな気づきがあったか、どんなことを感じたのかを発表してもらいましょう。発表者を決めてください。」 ＊学生の発言を板書する。 ＊進行によって発表させるチーム数を調整する 3.「自分の席に戻ってください。」	チーム学習 5 人 1 組
	＜休憩＞		

6 ジョハリの窓から学ぶこと（６０分） 講義 「ジョハリの窓から学ぶこと」を考える（５分） ↓ チーム学習 ②の窓が大きいとうまくいかない例（５分） ↓ 発表（５分）・まとめ（３分） ↓ ②の窓を小さくするには（５分） ↓ 発表（５分）・まとめ（３分） ↓	6 ジョハリの窓から学ぶこと（６０分） １．前の時間を振り返り、「ジョハリの窓から学ぶこと」を考える。（５分）	１．「このワークは、自分を知り、自分を理解するためのものでした。自分についての新しい気づきがありましたね。」 ＊教員が学生の言葉を受けて、その言葉を取り入れながら全体を振り返り、それぞれの窓について確認していく。 「自分が思っていたことと、他人が思っていたことが、一致していてうれしく、自分に自信を持った人もいるでしょう。」＜うれしい、自信になる、これでいい＞ 「自分が思っていなかったことを他人が思ってくれていたことがあることに驚き、意外に思った人もいるでしょう。」＜意外、ビックリ、うれしい＞ 「『隠された窓』は大きく、わかってもらっているつもりだったのにむずかしいなぁ、なぜなんだろうと思った人もいるでしょう。また、自分が隠していることを知られないように取り繕っていることに気づいた人もいるかもしれませんね。」＜自分は〇〇のつもりだったのに、なぜ伝わっていないんだろう＞ 「自分にも他人にも発掘されていない、未知の可能性の部分もあることを知った人もいるでしょう。これは自分がまだ体験していないことがあるということです。これからの体験で自分も他人も想像もつかない力を発 揮することがあるかもしれませんね。」＜どんなことだろう？＞	講義
	２．②の窓が大きいとうまくいかない例を考える。 ＊隣の人と２ 人で考える（５分） ＊指名された人が発表する（５分） ＊まとめ（３分）	２．「もし、実はおしゃべりなのに、自分はおとなしいと思い込んでいたら、相手はどう思うでしょうか？隣の人と考えてみましょう。」 ＊話し合いが進んでいないようであれば、具体的な例を教員が提示する。（例：みんなでお茶をしている時に、一人でしゃべりまくっていたら？友人とバスに乗っていて、相手は眠りたいのにしゃべり続けたら？など）。 ＊何名かに発表させる。 ＊発表内容を聞き取り、板書する。 ＊発表後にまとめる。 「コミュニケーションがうまくいかないことがあるかもしれませんね。ズレやあつれきを生んだり、知らぬは本人ばかりなり、となることもあるでしょう。 自分に気づくことが大切なのです。おしゃべりな自分に気づくことで、人とのコミュニケーションも変わってくるでしょう。」	チーム学習 ２名１組
	３．②の窓を小さく（①の窓を広げる）するためにはどうするか考える。 ＊ワークを行った５人１組のチームで座席の近くに集まる。 ＊５人で考える（５分） ＊代表が発表する（５分） ＊まとめ（３分）	３．「②の窓を小さくするためにはどうしたらいいでしょうか？ワークをやったメンバーで話し合ってみましょう。座席の近くに移動してください。」 ＊発表内容を聞き取り、板書する。 ＊発表後にまとめる。 「『自分の知らない領域』を右側②に広げるためには他人の話を素直に聴くことを心がけることが大切です。他人からできるだけアドバイスをもらう、自分はどんな人に見えるかを教えてもらう、日常生活で疑問に感じたとき、それを反すうしてみる、なぜそう言われたのだろうと振り返る・・などです。」 「自分にとって良いことは受け入れやすいのですが、否定的な内容だと、落ちこんだり、ムッとすることもあるかもしれません。それを受容することは、時にはきついことですが、マイナスの出来事も自分を成長させる糧となるとプラスに 受け止めてみてください。 自分が思っているつもりでも、それを判断するのは相手です。相手がどう思っているかを知っておくことも大切なことです。」 「良いことは素直に喜び、認めてくれていることをかみしめましょう。しかし、嫌なこと、悪いことを認めなければ窓は広がりません。教えてもらったことに感謝する 気持ちを持つことが、自分を変えるためのきっかけになると考え、素直に受け入れましょう。」	５名１組

③の窓が大きいとうまくいかない例（5分） ↓ 発表（5分）・まとめ（3分） ↓ ③の窓を小さくするには（5分） ↓ 発表（5分）・まとめ（3分） ↓ 自席に戻る（3分）	**4．③の窓が大きいとうまくいかない例を考える** ＊今、集まっているグループの隣の人と 2 人で考える（5 分） ＊指名された人が発表する（5 分） ＊まとめ（3 分）	**4．「もし、自分の気持ちを隠していたら、相手はどう思うでしょうか？隣の人と考えてみましょう。」** ＊話し合いが進んでいないようであれば、具体的な例を教員が提示する。（例：本当はやりたくないことをやらされた時、本当は伝えなければいけないことを黙っている時など）。 ＊何名かに発表させる。 ＊発表内容を聞き取り、板書する。 ＊発表後にまとめる。 **「これも、コミュニケーションがうまくいかないかもしれませんね。弱みなどを隠したり、取り繕うことで、言動が不自然になったり、ちぐはぐになったりすることもあるでしょう。伝えきれていない自分に気づくことで、人とのコミュニケーションも変わってくるでしょう。『隠している窓』を小さくするとよいですね。」**	2名1組
	5．③の窓を小さくするためにはどうするかを考える。 ＊5 人で考える（5 分） ＊代表が発表する（5 分） ＊まとめ（3 分）	**5．「今のメンバー５人で話し合ってみましょう。」** ＊発表内容を聞き取り、板書する。 ＊発表後にまとめる。 **「『他人が知らない領域』を下③に広げるためには、自己開示をして、自分の意見を素直に言うことが大切です。自分について話す、自分をもっとアピールした方がよい領域です。 自分を分かってもらうために、どう行動し、どんな言葉で表現したらよいか、自分を分かってもらう努力をしましょう。弱点はみな隠したいものです。でも、そのままでは、良いコミュニケーションはできません。隠していることが多ければ多いほど、相手も隠すようになります。本音で伝えあえるようになると窓が開き、信頼関係を築くことができるようになります。」**	5名1組
	＊自分の席に戻る（3 分）	**「では、自分の席に戻ってください。」**	
7 まとめ（２５分） 講義 ↓ ワークで学んだことを考える ↓ 「今日のまとめ」をノートに写す	7 まとめ（２５分） **1．このワークで学んだことを考える。** ＊P49～51 を読む。 ＊大切なところにラインを引きながら読む。	１．Ｐ４９～５１を全員で読み合わせる。 ①それぞれの窓の事例を説明する。 ②本時はプラスイメージの項目であったが、マイナスのイメージの項目も説明する。 ③大切な所を示しながら読む。マーカーを引くように指示する。 ④開かれた窓①を大きくすることが大切であることをおさえておく。	講義
	2．板書をノートに写す。 ①他者との関わりで生きている。	２．「今日のまとめ」掲示用（拡大版）を掲示する。 **①「今日のワークは自分一人ではできませんでしたね。質問をして、それに答えてくれる人がいてできたということを知ってください。」** **「私たちは、他者との関わりの中で生きています。自分ひとりでは、本当の自分のことはわからないものです。私たちは、自分のことを聴いてくれる人、自分に伝えてくれる人と共にあって成長します。他者は自分が成長するための大切な存在であるのです。相手があっての自分であること、家族や友人、話を聴いてくれる人、といった自分の周りの人を大事にすることの大切さを感じてください。」**	
	②判断するのは相手。	**②「自分のことを明るいと思っていなくても、人は明るいと思ってくれていましたね。逆に、自分はおしゃべりだと思っていないのに、相手は自分のことをおしゃべりでうるさいと思っているかもしれませんね。判断するのは相手なのです。」**	
	③コミュニケーションはまず自分を知ることから	**③「②の窓や③の窓でコミュニケーションをしてもうまくいかないことを知りましたね。コミュニケーションは②の窓や③の窓の項目を知ることから始まります。自分が気づいていないこと、自分が隠していることに気づいていくということなのです。」**	

	④自己成長とは「開かれた窓」を大きく、「未知の窓」を小さくすること ⑤人生は一瞬一瞬の積み重ね ⑥お互いが「聴き合う」ことから始めよう	④「自己成長とは、『開かれた窓』を大きくし、『未知の窓』を小さくすることを意味しています。今日も、自己成長をしているのですよ。」 ⑤「このワークの結果は、この場、この人数、このメンバー、この質問、この時間による体験の結果が『四つの窓』に表れたもので、もちろんほんの一部分ではあります。しかし、このような一瞬一瞬の積み重ねの連続が人生となっていくのです。」 ⑥「まず、お互いが『聴き合う』ことから始めてみましょう。そして自分に気づいていきましょう。」 ３．「今日使ったワークシートに日付を記入し、リングファイルに綴じて終わります。」	
8 予　備（５分）	8 予 備（５分）		

指導・協力
NPO 法人　日本交流分析協会

第2章　第2節 「自分を知る手がかり」(90 分用)

1．教　　材　・『やる気の根っこ』　P11：私の「心の四つの窓」
P12：「質問の例」
P13：「今日のまとめ」
P49～51：「ジョハリの窓から学ぶこと」
P63：カード（切り分けて準備）
・『教員用ガイド』　「カード」記入例（掲示用／必要に応じて拡大）
私の「心の四つの窓」記入例（掲示用／必要に応じて拡大）
「今日のまとめ」掲示用（掲示用／必要に応じて拡大）

2．備　　品　ストップウォッチ（教員用）
赤・黒ボールペン、マーカーペン（個人／事前に用意するように指示）

3．指導目標　自他から見た自己を「四つの窓」に分けて検討し、自己理解と人間関係改善について考える。

①　心地よい時間を作る
チーム作業で、「質問される」ことの心地よさを実感し、緊張感がほぐれ、場が和み、仲間同士が打ち解ける快い時間を作ることができる。

②　自分について発見する
・自分が思っていたことと、他人が思っていたことが一致してうれしい
→　自分に自信が持てる。
・自分が思っていなかったことを他人が思ってくれることに驚きがある
→　認められ、うれしい。
・自分は思っていても、他人には伝わっていなかったことに驚きがある
→　意外だなぁ、もっと表現してもいいかもしれない。
・自分にも他人にも発掘されていない未知の可能性の部分もあるということ。
→　出会っていない自分がいるらしい。

③　「自己成長」について学ぶ
・私たちは、他者との関わりの中で生きている。自分ひとりでは、本当の自分のことはわからないものだ。私たちは自分のことを聴いてくれる人、自分に伝えてくれる人と共にあって成長するのであり、他者は自分が成長するための大切な存在である。
・自己成長のためには「開かれた窓」を大きくすることが必要であるが、そのためには人の話や意見に素直に謙虚に耳を傾け、また自分の意見も素直に伝える態度が大切であることを学ぶ。それは、自分が関わっていく全ての人々とのコミュニケーショ ンの核となるものである。
・まず、お互いが「聴き合う」ことから始めよう。

1 導　入（3分）

2 手順の説明とワーク（３０分）
チーム学習
資料を使ってワークの準備（5分）
↓
質問とカード記入（２５分）

3 集計（１２分）
セルフワーク
カード集計
↓
ワークシート「私の「心の四つの窓」」に転記

4 振り返り（１０分）
講義
窓の名前の記入（7分）
↓
セルフワーク
感想をワークシートに記入（3分）

5 振り返りの発表（１５分）
チーム学習
チーム内で発表（１０分）
チーム代表が発表（5分）

４．ワーク「自分を知る手がかり」の流れ　(90 分バージョン)

★　ポイント

1　導　　入（３分）　　「自分はどんな人？」

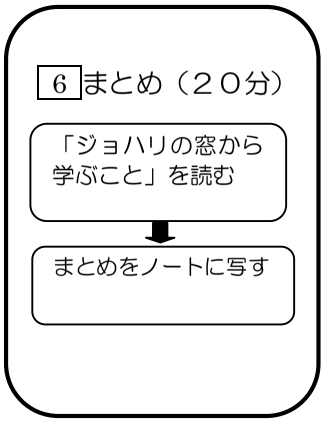
2　手順の説明とワーク（３０分）
　５人チーム×５の場合
　　準　　備　　５分
　　（質問　４分＋記入１分）×５人＝２５分
★　ワークを楽しむ。

3　集　　計（１２分）

4　振り返り（１０分）
★　自分に気づいて書く。

5　振り返りの発表（１５分）
★　聴き合って、他人の気づきも共有する。

6　まとめ（２０分）
★　ワークの意義を考える



５．授業の展開　（９０分）

1 導　入（3分）

2 手順の説明とワーク（30分）
チーム学習

資料を使ってワークの準備（手順１－６）（１０分）

学習内容および手順	教員の発問および留意点	形 態
1 導入（３分） 1．隣同士で、相手に自分の性格について話す。	1．「自分はどんな性格ですか？隣同士で、自分の性格を２つ言ってみてください。」 （例として、教師が自分の性格を２つ言う。優しい、短気、優柔不断など） 「相手に自分の性格を伝えられましたか？ 自分のことは知っているようで、改めて人に伝えようとすると意外と知らないものですね。」 「今日は、『自分を知る手がかり』のワークをやってみましょう。」	チーム学習 2名１組
2 手順の説明とワーク（３０分） 1．５名１組のチームを作る。 ＊決められたチームを認識する。 2．使用する教材を確認する。 P.10-12 ＊カード５枚 P.63 ＊「私の『心の四つの窓』 P.11 ＊質問例 P.12	1．「それでは、まず５名のチームを作りましょう。」 ＊机の近い５名を１チームにする。 2．「これから『やる気の根っこ』の P11, 12 と切り分けておいた P63 のカード５枚を使います。」	5名１組
3．自分のカードに自分のイメージ５つを選び、赤ボールペンで〇を付ける。 時間をおかずに、直感で記入する。	3．「5 枚のカードのうち１枚に自分の名前を赤ボールペンで 書いてください。そして自分のイメージを 1～10 の項目から５つ 選び、そのカードに赤ボールペンで〇をつけましょう。深く考え込まず、直感でつけてください。記入したら、カードを伏せておきましょう。」	
4．他の４枚のカードに、黒ボールペンで自分の名前と他の４人の名前を記入する。	4．「次に、他の４枚のカードに、自分の名前と４人のメンバーの名前を 黒ボールペンで記入しましょう。」	
5．4 枚のカードと P12、黒ボールペンで自分の名前と他の４人の名前を記入する。	5．「4 人の名前の入った４枚のカードと P12、黒ボールペンを持って向い合える場所に移動し、チームごとに輪になってください。」	
6．最初に（親）になる人を決める。	6．「各チームで、じゃんけんで最初の（親）を決めてください。」	

質問とカード記入 （手順７－１０） （２０分）	７．（親）の名前を書いたカードを準備し、（親）に質問を始める。 ＊(他のメンバーから（親）への質問４分＋カードへの記入１分) ×5 回＝25 分 ＊時間を守る ＊直観で記入し時間をかけない。 質問のやりとりで 心地よい時間を作る １０．自分の席に戻る。	７．「これから（親）に対して、（親）の隣の人から順に１問ずついろいろ質問をしてください。質問時間は 4 分間です。自由に質問をして構いませんが、質問がとぎれたら、P12 を参考にしましょう。女性の年齢など プライバシーに触れる問題は避けましょう。また『あなたは人生をどう思いますか？』など、長すぎる答えになるような質問も避けましょう。自分が答えたくない問題はパスしてもかまいません。 では、始めて下さい。」 ８．「それでは、今の質問タイムでの、あなたが感じた印象を項目の中から 5 つ選び、黒ボールペンで〇をつけましょう。記入をしたら、(親)にカードを伏せて渡してください。」 ＊時間を取らないように促す。 ９．「では、今度は（親）の右隣の人が（親）になります。 同じように、4 分間、質問をして、カードに 記入してください。」 ＊チーム全員が順番に同様の手順で（親）をやる 。 ＊5 人全員が終わったことを確認する。 １０．「自分の席に戻ってください。」	
3 集計（１２分） セルフワーク カード集計 ワークシート「私の「心の四つの窓」」に転記	3 集計（１２分） １．カードの集計をする。 ＊各自が勝手に作業を進めないで、指示を守る。 ＊項目ごとに集計する。 ２．集計結果を P11 に転記する。 ①赤ボールペンで〇を転記する。 ②数字を転記する。 ③窓ごとにマーカーを引く ④マーカーの項目を横に書く。 ＊教員の説明に合わせて、4 つの窓の意味を考えながら記入していく。	１．「これから、全員一斉にカードの集計をしていきますので、私の手順に合わせて進めてください。」 「集計結果に良い、悪いはありません。」 ＊「カード記入例」（拡大版）を掲示する。 「自分が赤〇をつけた自分のカードの右端に、他の4人から〇をつけてもらった数の合計を（１）～（１０） までの項目ごとに記入します。合計の数は0～4になります。」 ２．「P11 を用意しましょう。」 ＊私の「心の四つの窓」記入例（拡大版）を掲示する。 ＊意味がわかるように説明しながら、ひとつずつゆっくり進めていく。 ①「まず、4 つの窓すべてに、赤ボールペンで自分が赤〇をつけた番号と同じ番号に〇をつけます。」 ②「次に、他の 4 人から集計した数を４つの窓すべての番号の横に記入します。」 ③④「次に、①の窓で、赤〇がついていて、つまり自分はそう思っていて、しかも他人もそう思ってくれたところ（人数が０以外）にマーカーを引き、その項目の言葉（例：観察力がある）を窓の中に記入します。」 「②の窓で、赤〇はついていなくて、つまり自分はそう思っていなくて、しかし他人はそう思っているところ（人数が０以外）にマーカーを引き、その項目の言葉（例：明るく楽しい）を窓の中に記入します。」 「③の窓で、赤〇はついていて、つまり自分はそう思っていて、しかし他人はそう思っていないところ（人数が０）にマーカーを引き、その項目の言葉（例：我慢強い）を窓の中に記入します。」 「④の窓で、赤〇がついていなくて、つまり自分はそう思っていなくて、しかも他人もそう思っていないところ（人数が０） 窓の中に記入します。」 ＊全員が記入できているか確認をしてから次に進める。	セルフワーク

4 振り返り（10分）
講義

窓の名前の記入
（3分）

↓

セルフワーク

感想をワークシートに記入（7分）

5 振り返りの発表
（15分）
チーム学習

チーム内で発表
（10分）

↓

チーム代表が発表
（5分）

4 振り返り（10分） 1.「四つの窓」には、名前がついていることとその特徴を知り、P11 に窓の名前を記入する。 ①の横に「開かれた窓」と記入する。 ②の横に「気づかない窓」と記入する。 ③の横に「隠している窓」と記入する。 ④の横に「未知の窓」と記入する。 2. 気づきや感想を P11 に記入する。 ＊自分の気づきや感想、自分の窓の大きさで気づいたことを書く。 自分の気づきが一番大切	1.「 P11 の記入が終わったようですので、 四つの窓の表すものを簡単に説明します。四つの窓にはそれぞれ名前がついています。」 「①の窓は『開かれた窓』と言います。自分も他人も知っている項目です。」 「②の窓は『気づかない窓』です。自分は知らないが、他人は知っている項目です。」 「③の窓は『隠している窓』です。自分は知っているが、他人は知らない項目です。」 「④の窓は『未知の窓』で、自分も他人も知らない項目です。」 2.「それでは、このワークをおこなっての感想を P11 に記入しましょう。」 「自分が思っている項目と他人が思っている項目は一致しましたか？あるいは、そうではありませんでしたか？いろんな気づきがあったと思います。その気づきや感想を自由に書いてください。また、窓の大きさはどうでしたか？どの窓が大きく、どの窓が小さかったですか？この２つの観点で書いてください。」 ＊この時間をたっぷりと取り、一人ひとりの気づきを感じることが大切。じっくり取り組ませる。	講義
5 振り返りの発表（１５分） 1. 各自がワークをやって気づいたことを発表する。 ＊ワークを行った 5 名 1 組のチームで再度、集まる。 （1 人 2 分×5 回＝10 分 ） 2. チームの代表が発表する。 (1 チーム 1 分× 5 チーム＝5 分) 聴き合って、他人の気づきも共有する 3. 自分の席に戻る。	1.「5 名のチームで、このワークを通して気づいたこと、感じたことを発表し合いましょう。ワークをやったメンバーで再度、集まってください。」 2.「各チームの代表から、メンバーにどんな気づきがあったか、どんなことを感じたのかを発表してもらいましょう。発表者を決めてください。」 ＊学生の発言を板書する。 ＊進行によって発表させるチーム数を調整する 3.「自分の席に戻ってください。」	チーム学習 5 人 1 組

6 まとめ（２０分）
講義

P49～５１を読む（5分）

↓

まとめをノートに写す

6 まとめ（２０分） **１．このワークで学んだことを考える。** ＊P49～51 を読む。 ＊大切なところにラインを引きながら読む。 **２．本時の大切なまとめの板書をノートに写す。** ①他者との関わりで生きている。 ②判断するのは相手。 ③コミュニケーションはまず自分を知ることから ④自己成長とは「開かれた窓」を大きく、「未知の窓」を小さくすること ⑤人生は一瞬一瞬の積み重ね ⑥互いが「聴き合う」ことから始めよう	１．Ｐ４９～５１を全員で読み合わせる。 ①それぞれの窓の事例を説明する。 ②本時はプラスイメージの項目であったが、マイナスのイメージの項目も説明する。 ③大切な所を示しながら読む。マーカーを引くように指示する。 ④開かれた窓①を大きくすることが大切であることをおさえておく。 ２．まとめを板書する。 ①「今日のワークは自分一人ではできませんでしたね。質問をして、それに答えてくれる人がいてできたということを知ってください。」 「私たちは、他者との関わりの中で生きています。自分ひとりでは、本当の自分のことはわからないものです。私たちは、自分のことを聴いてくれる人、自分に伝えてくれる人と共にあって成長します。他者は自分が成長するための大切な存在であるのです。相手があっての自分であること、家族や友人、話を聴いてくれる人、といった自分の周りの人を大事にすることの大切さを感じてください。」 ②「自分のことを明るいと思っていなくても、人は明るいと思ってくれていましたね。逆に、自分はおしゃべりだと思っていないのに、相手は自分のことをおしゃべりでうるさいと思っているかもしれませんね。判断するのは相手なのです。」 ③「②の窓や③の窓でコミュニケーションをしてもうまくいかないことを知りましたね。コミュニケーションは②の窓や③の窓の項目を知ることから始まります。自分が気づいていないこと、自分が隠していることに気づいていくということなのです。」 ④「自己成長とは、『開かれた窓』を大きくし、『未知の窓』を小さくすることを意味しています。今日も、自己成長をしているのですよ。」 ⑤「このワークの結果は、この場、この人数、このメンバー、この質問、この時間による体験の結果が『四つの窓』に表れたもので、もちろんほんの一部分ではあります。しかし、このような一瞬一瞬の積み重ねの連続が人生となっていくのです。」 ⑥「まず、お互いが『聴き合う』ことから始めてみましょう。そして自分に気づいていきましょう。」 ３．「今日使ったワークシートに日付を記入し、リングファイルに綴じて終わります。」	講義

指導・協力
NPO 法人　日本交流分析協会

（記入例）　より 相手の名前　さんへ	
1．明るい楽しい	4
2．責任感がある	4
3．おとなしい	3
④観察力がある	2
5．楽天家	2
6．親切	0
⑦我慢強い	0
⑧計画的	1
⑨優しい	2
⑩礼儀正しい	2

© NPO法人　日本交流分析協会

私の「心の四つの窓」（記入例）

	自分が知っている		自分が知らない	
他人が知っている	(1)－ 4		(1)－ 4	明るく楽しい
	(2)－ 4		(2)－ 4	責任感がある
	(3)－ 3		(3)－ 3	おとなしい
	④ － 2	観察力がある	④ － 2	
	(5)－ 2	（①　　窓）	(5)－ 2	楽天家　（②　　窓）
	(6)－ 0		(6)－ 0	
	⑦ － 0		⑦ － 0	
	⑧ － 1	計画的	⑧ － 1	
	⑨ － 2	優しい	⑨ － 2	
	⑩ － 2	礼儀正しい	⑩ － 2	
他人が知らない	(1)－ 4		(1)－ 4	
	(2)－ 4		(2)－ 4	
	(3)－ 3		(3)－ 3	
	④ － 2		④ － 2	
	(5)－ 2	（③　　窓）	(5)－ 2	（④　　窓）
	(6)－ 0		(6)－ 0	親切
	⑦ － 0	我慢強い	⑦ － 0	
	⑧ － 1		⑧ － 1	
	⑨ － 2		⑨ － 2	
	⑩ － 2		⑩ － 2	

◆ ワークを通して気づいたこと、感じたことを書いてみましょう

◆ 4つ窓の大きさはどうでしたか？それについてどう思いましたか？

© NPO法人　日本交流分析協会

今　日　の　ま　と　め

１．　他者との関わりの中で生きている。

２．　判断するのは相手。

３．　コミュニケーションはまず自分を知ることから。

４．　自己成長とは「開かれた窓」を大きく、「未知の窓」を小さくすること。

５．　人生は一瞬一瞬の積み重ね。

６．　お互いが「聴き合う」ことから始めよう。

第2章　第3節 「私の大切なもの探し」

1．教　　材　・『やる気の根っこ』　P14：ワークの進め方シート
P15：振り返りシート
P65：用語集
・その他　Ａ３用紙

2．備　　品　はさみ、のり、色鉛筆（個人／事前に用意するように指示）但し、予備をチーム分準備

3．指導目標　自分は普段どのように考え、どのように動いているのかを知ること、自分のものの考え方の特徴や態度、行動の仕方などに気づいて見ることで、自分が大切にしている思いや価値観といえるものを自分自身理解しておく。

4．ワーク「私の大切なもの探し」の流れ　（９０分バージョン）

1　導　入　（５分）

2　手順の説 明とセルフワーク　（２５分）

3　セルフワークのまとめ記入　（１０分）

4　振り返り　（３５分）

5　まとめ　（１５分）

1 導　入（５分）

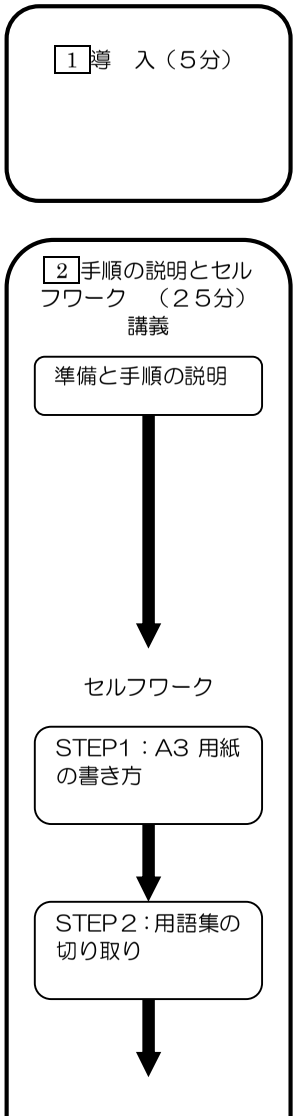
2 手順の説明とセルフワーク（２５分）
講義
準備と手順の説明
↓
セルフワーク
STEP1-5：A3 用紙に用語を貼って色付け

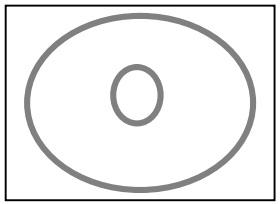
3 セルフワークのまとめ記入（１０分）
振り返りシートの記入

4 振り返り（３５分）
チーム学習
チーム内での振り返り

5 まとめ（１５分）
講義

５．授業の展開　（９０分）



学習内容および手順	教員の発問および留意点	形 態
1 導　入（５分） １．本時の授業内容の概要と進め方を説明	１．「人はそれぞれ生まれ育ってきた過程で身につけたことがあります。その中には、自分にとって大切にしたい思いや大事なことがらなど『価値観』と呼ばれるものがあります。」 「今日は、その『価値観』である“自分の大切なもの”を探してみましょう。そして、自分で探し出した大切なものを自分なりに言葉・文章にしてみることで、改めて気づきを得ていただきたいと考えています。」 「そして、自分自身が気づいた大切なものを、チームになって、許せる範囲で話して見ましょう。同じ職業を目指す、あるいは同じ学びをしている皆さんですが、いろんな大切なものを持たれた人がいることに気づくかもしれません。」	講義
2 手順の説明とセルフワーク　（２５分） １．資料の確認 ＊ワークの進め方シート　P.14 ＊用語集　P.65 ＊A３用紙	１．「それでは、はじめましょう。まずは、資料を配ります。各自１枚ずつ取ってください。資料は３種類です。」 「皆さん、届きましたか？」	講義
２．セルフワークで使用する備品の確認 ＊はさみ ＊のり ＊色鉛筆	２．「今日は、はさみ、のり、色鉛筆を持ってくることになっていますが、ない人はいますか？ 隣同士で借りることが出来ない人は、後ほど使用する際に声をかけてください。」 「まずは、ワークの進め方を説明します。Ａ３用紙を横にしておき〇を板書で示したように書いておいてください。〇の大きさや形は各自自由で構いません。」	
３．ＳＴＥＰ１の説明 ①Ａ３用紙に〇を書く ②中央の円に自分の名前やニックネームを書く	３．１４ページの「ワークの進め方」シート STEP1 を見ながら、セルフワークについて説明をする。〇の書き方の例を板書する。 「次に中央の円に自分の名前やニックネームを書いておきましょう。」 	
４．ＳＴＥＰ２の説明 ①空欄に自分の態度・行動の仕方や考え方の特徴、大切なことで、用語集にないものがあれば記入 ②用語集を線に沿って切る	４．「次に６５ページの用語集について説明します。その用語の中から自分の態度・行動の仕方や考え方の特徴、大切なことを表現する用語を見つけてみましょう。もし用語集にないものがあれば、空欄に記入しましょう。他人からよく言われることも付け加えましょう。用語の意味がよく分らない方は、作業中に先生に声をかけてください。」 「用語集を線にそって切ります。はさみを使わず定規で切ったりしても構いません。」	

STEP３：A3 用紙に用語を置いていく ↓ STEP４：用語ののり付、分類、色分け ↓ STEP５：自分との言葉の距離を矢印で表す	５．ＳＴＥＰ３の説明 Ａ３用紙に切り取った用語を置いていく ６．ＳＴＥＰ４の説明 ①のり付けする ②用語を分類する ③色鉛筆で色分けする ７．ＳＴＥＰ５の説明 ①全体を眺める ②もっと自分に近付けたい言葉、遠ざけたい言葉を矢印で表す	５．「Ａ３用紙を前に置いて、切り取った用語を置いていきます。」 「その際、真ん中の自分とそれぞれの言葉の距離や位置を考えながら配置します。例えば、自分にぴったりとした言葉を、自分の近くに置いたり、あるいはその逆にというように置いたりしてみるのもいいでしょう。」 「言葉同士の関係も考えて位置を決めていくとよいでしょう。例えば、よく似たもの同士をそばに置いたり、その逆というようにしてもいいでしょう。」 「コピーされた言葉は全部使い、自分と直接つながらないと思うような言葉も、どこかに仮に置いてみて下さい。」 ６．「自分なりにそれぞれの言葉の位置が決まれば、のりで貼り付けます。」 「貼り終わったら、自分なりに分類して、色鉛筆で色分けします。分類の基準は自分で決めればいいですし、また決めなくても構いません。自分が思うような分け方をしてみてください。」 ７．「完成したら、まず眺めて見ましょう。さらに、色鉛筆でもっと私に近づけたい言葉は私（中央）に向けて、遠ざけたい言葉は外に向けて、矢印を書いてみましょう。」	
3 セルフワークのまとめ記入（１０分） 振り返りシートの記入	3 セルフワークのまとめ記入（１０分） １．振り返りシートの記入 P.15 ＊セルフワークで作成した全体像から、自分自身の大切なものを整理・統合させるために、振り返りシートに文章で書きとめておく。	１．振り返りシートを一人１枚ずつ配る 「それでは、完成した全体像を見て『自分自身にとっての大切なことは何か』を文章で表現してみましょう。」 「先ほどのワークで用語の配置を考え、関連づけたり、分類したりしましたが、その時にどのようなことを考えながら作業していましたか。 『あぁ、自分はいつもこんなことを意識して行動しているなぁ』と感じたり、『似たような言葉が集まっているな。そういえば日ごろ、私がこだわっていることだなぁ。』などと感じませんでしたか。 作業していた時に浮かんだ気持ちを振り返りながら、文章で表現してみましょう。」 「また『やってみた感想』についても記入しておきましょう。」 ＊全体を巡回し、様子をみて次のワークに移る。	セルフワーク
4 振り返り（３５分） チーム学習 チーム内での振り返り	4 振り返り（３５分） １．振り返りシートに記入した内容をメンバーに発表し意見交換する	１．「6 人 1 組でチームを作ります。机をつけて囲むようにして準備してください。」 ＊チームメンバーの色々な声を聴くことができるように 6～7 人のチームを作る。 ＊ただし、時間が限られる場合は、4～5 人で実施しても構わない。 「このワークを通し、自分の大切なものについて、改めて気づいたり、感じたりしたことを、Ａ３シートを見せながらチームメンバーに話をしてみましょう。」	チーム学習 6名1組

	＊順番を強制しないで１人３分以内 ＊話をしているときは途中で遮らずに聴く ＊話終ったら感想を言ってあげる ＊全部で１人５分	「話す時間は３分以内でお願いします。順番は強制をせずに決めるようにしましょう。発表をする人が話をしている時は、他の人はまずは聴くことにしてください。途中で話をさえぎることは遠慮しましょう。話が終った時点で、他のメンバーは、一人ずつ、一言、話し手の内容について感想を言ってあげましょう。全員からのフィードバックを含めて、一人について５分以内とします。６人では30分ですね。」 「それでは、はじめてください。」 ＊終了時間を板書しておく。 ＊終了７分前になったら全体に声をかける 「そろそろ時間になります。皆さん全員話終わりましたか」 ＊まだチームに複数残っているようならば、少し早めるように促す。 ＊終了１分前に 「時間です。まだ終っていない人はいますか？　全員話はしているようですね。」	
5 まとめ（１５分） 講義 チーム作業の感想を書く ↓ チームごと１名発表	5 まとめ（１５分） １．チーム作業をしての感想をシートに書く ２．チームごとに、１名ずつ話をした感想を発表してもらう ３．全体まとめ ＊自分の大切なこと（思い）について、意識する。 ＊自らの価値観と他者の価値観の違いを受容する。 ＊仕事選択をする際のより所となる価値観を確認しておく。	１．「それでは、１５ページ下段の枠にチームメンバーからもらった感想や自分の気づきを書き留めておきましょう。５分程度時間をとります。どうぞ、お書きください。」 ＊５分経過または記入している状況をみて、 「それでは、各チームから一人ずつ、話をした感想をお聴きします。どなたかお話ししてくれる人はいますか。」 ＊申し出る人がいれば、そのまま発表してもらう。いなければ、 「それでは、チームで一人ずつ決めて、順番に発表していただきます。簡単で結構です。」 「では、順番に発表していただきます。」 「発表ありがとうございました。」 ＊できれば、一人ひとりにその都度簡単にコメントをする。 ＊コラムを参考に、職業選択に必要な要素としての価値観（大切なこと）を知ることで、これからの仕事選びの参考にしてほしい旨を伝える。 ＊なお、他人と比較したり、どの価値観が正しいといった評価をするものではなく、自分自身の大切なことを自分が理解しておくことが重要であることを説明する。 ３．「今日使ったワークシートの右上に日付を記入し、リングファイルに綴じて終わります。」	講義

第2章　第4節「私ってどんな人？」

１．教　　材　・『やる気の根っこ』　P16～P18：私ってどんな人？
・『教員用ガイド』　ネガポジまっぷ
ネガポジまっぷ例
・その他　Ａ４用紙（１人２枚ずつ）

２．備　　品　カラーペン赤・青（個人）
その他の色のカラーペン（個人適宜）
ストップウォッチ（教員用）

３．指導目標　・自分の特性を分析することにより、自分にどのような能力・特性があるのかを明確化する。
・第２章１節から本節までのワークを統合するために、自己紹介マップにより自己分析および自己洞察を行う。

４．ワーク「私ってどんな人？」の流れ　（９０分バージョン）

1　導　入（５分）　ワークの説明

2　展開①（２０分）　「ネガポジまっぷ」の作成

3　展開②（６０分）　「自己ＰＲマップ」の作成

4　まとめ（５分）　振り返り

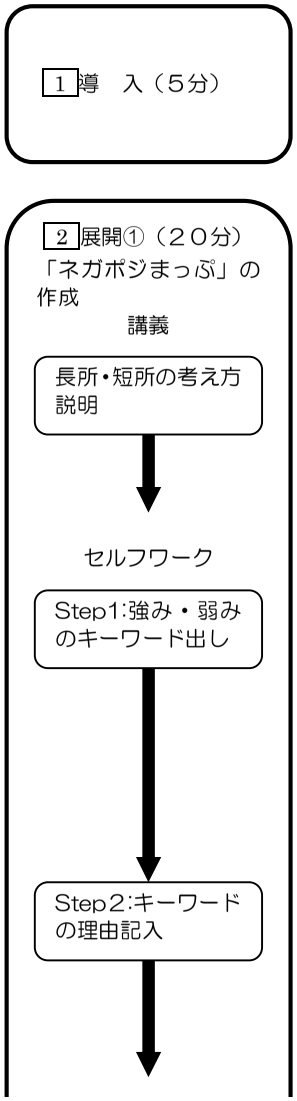
1 導　入（５分）

2 展開①（２０分）
「ネガポジまっぷ」の作成
講義
長所・短所の考え方説明
セルフワーク
Step1-4:「ネガポジまっぷ」の作成、振り返り

3 展開②（６０分）
「自己ＰＲマップ」の作成
セルフワーク
Step1-3:「自己 PR マップ」の作成（30 分）
Step4:発表用原稿作成（１０分）
チーム学習
Step５:チーム内で発表（20 分）

4 まとめ（５分）
振り返り

５．授業の展開　（９０分）



学習内容および手順	教員の発問および留意点	形 態
1 導入（５分） １．ワークの説明	１．「第４節『私ってどんな人？』は、２つのワークを通して、自分の“自己イメージ”を明確にしていきます。」 「前半は自分の特性を、強み・弱みに分けてマップに描き込んでいくワークを行います。 後半は、第１節からこの第４節までのワークすべてを振り返り、自分とはどんな人物なのかを分析しながら、自己ＰＲ用のマップを作成していきます。」 「マップを描く時は、絵文字や、カラフルな色を使って楽しく作っていきましょう。 最後にメンバーに対し、自己ＰＲの発表を行います。」	講義
2 展開①（２０分） 「ネガポジまっぷ」の作成	「ある特性を使って、うまくいくことが多ければ長所や強みといわれ、うまくいかないことが多ければ短所や弱点だといわれます。 たとえば『手順を示されたら、着実に進める』という特性の人は、 ・ある場面では『ミスなく安心して任せられる』 ・別の場面では『言われてできることは基本。臨機応変に対応することが必要』といわれます。 特性は、使い方や環境によって、長所になったり短所になったりするものです。特性そのものには、良いも悪いもありません。 今はまだ使いこなせていない特性も、磨いていけば長所や強みになっていきます。だから、今考える特性は、一般的に良いこととして言われているレベルでなくてもかまいませんし、強みや長所にこだわらなくていいのです。プラスに見える特性はもちろん、マイナスに見える特性も自分らしさです。強みや長所にこだわらずに、自分らしい特性を書き出してみましょう。」	
Step1 自分の強み・弱みのキーワード出し ・Ａ４用紙または『ネガポジまっぷ』シート（カラー）の確認	１．Ａ４用紙に「まっぷシートの作成例」のような『ネガポジまっぷ』シートをつくる。 （または web 版『ネガポジまっぷ』シートを予め人数分印刷し、配布する。） シートの右半分に、自分の強みや得意とすること（知識・才能・特殊能力・ユニークさなど）を書き込む。 続いて、左半分に自分の弱み、苦手なこと、改善したいことを書く。 ・中心から放射状に広がるように、キーワードを線と丸ワクでつなげていく。 ・線と丸ワクの色は、強みを赤ペン、弱みを青ペンで描く。	セルフワーク
Step2 各キーワードに対する理由の記入	２．Step1 で書いたキーワードの丸ワクの周りにその理由を書く。 ・「それはなぜ？」「どんな理由から？」「そのことをどんなふうに感じている？」というような問いかけをしながら、線と丸ワクでつなげていく。 （まっぷ記入のイメージがつかみやすくなるよう参照資料の「記入例」を配布する。）	

Step3:弱みのキーワードの見直し
↓
Step4:ワーク振り返り記入

3 展開②（６０分）
「自己 PR まっぷ」の作成

Step1:自分のイメージイラストを書く
↓
Step2:自己 PR キーワード出し
↓
Step３:キーワードの理由･エピソードの記入
↓
Step4:発表用原稿作成（１０分）
↓
チーム学習
Step5:チーム内で発表（20 分）

Step3 弱みのキーワードの見直し	３．全体の書き込みができたら、弱みのキーワードに注目してみる。 弱みのキーワードがもし、見方を変えて長所や強みになったら、赤ペンを使ってつなげてみよう。 例）気が強い→負けん気が強い、粘り強い おとなしい→じっくりものを考える	
Step4 ワークの振り返り	４．『ネガポジまっぷ』が完成したら、全体をながめて感じたことを記入しよう。	
3 展開②（６０分） １．「自己ＰＲまっぷ」の作成 Step1～Step3までで〈30 分〉 Step1 自分のイメージイラストを描く ・『自己ＰＲまっぷ』シートを配布する	１．第２章１節から行ってきたワーク（「過去を振り返ろう」、「自分を知る手がかり」、「私の大切なもの探し」）と、先ほどの「ネガポジまっぷ」の４つを振り返り、自分紹介をするための『自己ＰＲまっぷ』を作る。 **「まず、Ａ４用紙の中心に“自分”をイメージするイラストを描きます。まっぷシートの作成例を参考にして書いてみましょう。どんなイラストでもかまいません。** **イラストがうまく描けない人は、ハートマークでも顔マークでもいいです。」**	セルフワーク
Step2 自己ＰＲのキーワード出し	２．中心イラストから放射状に自己ＰＲしたい情報を書いていく。 「私ってこんな人」と相手に伝えるため、４つのワークを振り返り、メインとなる特徴や特性、性格などをキーワードで書き込む。 ・『ネガポジまっぷ』と同じようにキーワードを線と丸ワクでつなげていく。 ・線と丸ワクの色は何種類使ってもかまわない。関連性のある項目ごとに色分けしていく。	
Step3 各キーワードに対する理由・エピソードの記入	３．主になるキーワード（メインキーワード）が書けたら、その周りに理由やエピソードを書く。 このときなるべく短い言葉で、絵文字や記号を使って楽しく書いていく。	
Step4 発表用原稿作成〈10 分〉	４．まっぷが完成したら、メンバーに自己ＰＲの発表をするための原稿を作る。 マップを見せながら、１分３０秒で伝えられるようなストーリーを作ろう。	
Step5 メンバーに対し発表〈20 分〉 ・4～5 人のチームを作る ・時間を計りながら、クラス全体で同時進行する （発表：１人　１分 30 秒） （感想：１人　30 秒×4～5 人）	５．4～5 人１組でチームを作ります。机をつけて囲むように準備する。 発表原稿を基に、メンバーにまっぷを見せながら発表する。 発表が終わったら、メンバーは一言ずつ感想を言う。 終了時間を板書しておく	チーム学習

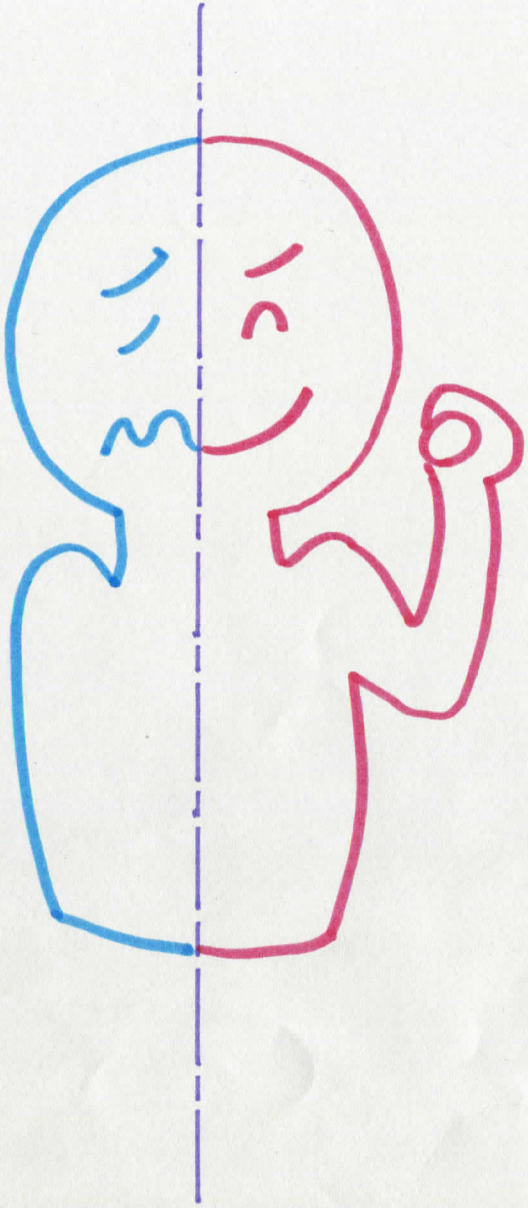
4 まとめ（５分）	4 まとめ（５分） 第４節の振り返り	「学校、サークル、アルバイト、就職…新しい環境で初めて出会う人たちと信頼関係を築き、よりよいコミュニケーションを図っていくには、まず自分のことを相手に理解してもらい、お互いを認め合うことからスタートします。」 「自分のことを相手に理解してもらうには、まず自分が自分のことをわかっていなければなりません。 「私って一体どんな人なの？」、「どんなイメージがあるのだろう？」ということを明確にさせるには、さまざまな角度から、自分のことを客観的に分析することが必要です。」 「自分を他者にアピールするには、現在の自分を把握し、自分について自分なりの自己評価と自信をもつことが必要です。 また、自己紹介や自己アピールをするには、まったくの他人が聞いても理解でき、納得できる内容にしなければ自分のことをわかってもらうことはできません。」 「自分の気持ちや状況は、具体化して言葉で表現することで、初めて相手に伝わることになります。」 「第２章では自己理解のためのワークをいくつか行ってきました。そして今回は様々な角度から自分を分析したものを積み直す（再構築して、統合する）ことを目的に、この『自己ＰＲまっぷ』を作成しました。 このまっぷは、今日で終わりということではなく、これからの人生のターニングポイントに立った時に、自分を振り返るという意味でつくってみるといいでしょう。」 「今日使ったワークシートの右上に日付を記入し、リングファイルに綴じて終わります。」	

参考：梅田幸子『あなたの天職がわかる　最強の自己分析』
㈱中経出版　2009 年 1 月 25 日(31 ページ～33 ページ、82 ページ～83 ページ)

ネガ・ポジまっぷ

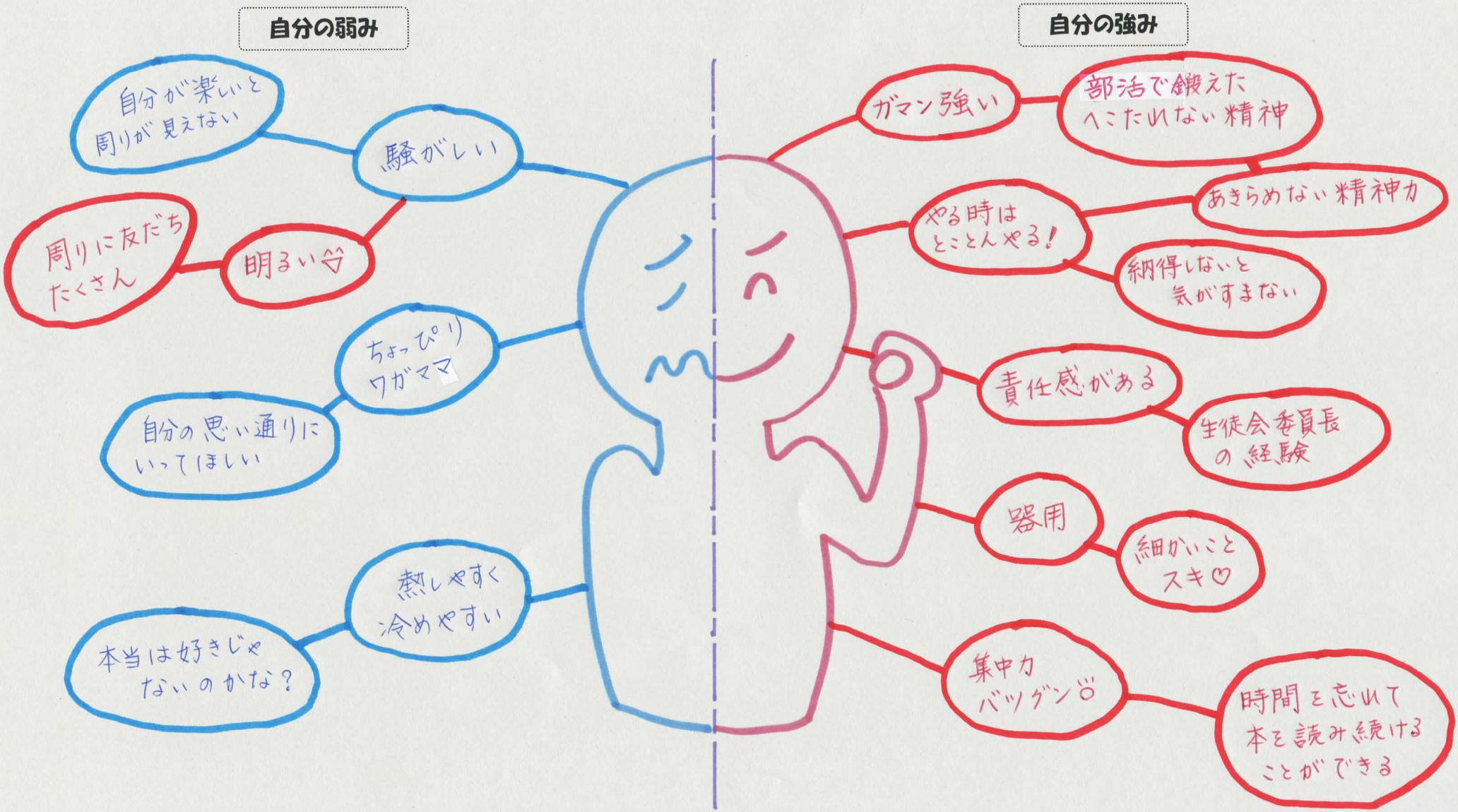
自分の弱み

自分の強み



記入例

ネガ・ポジまっぷ


自分の弱み
自分の強み
自分が楽しいと周りが見えない
騒がしい
周りに友だちたくさん
明るい♡
ちょっぴりワガママ
自分の思い通りにいってほしい
熱しやすく冷めやすい
本当は好きじゃないのかな？
ガマン強い
部活で鍛えたへこたれない精神
あきらめない精神力
やる時はとことんやる！
納得しないと気がすまない
責任感がある
生徒会委員長の経験
器用
細かいことスキ♡
集中力バツグン☆
時間を忘れて本を読み続けることができる

第2章　第5節「なぜ働くの？」

１．教　　材　・『やる気の根っこ』　P19～P23：なぜ働くの？

２．備　　品　ストップウォッチ（教員用）

３．指導目標　ケースを通して、仕事・働くことを思い考えてみる。
働く理由について、他者に伝え、そして聴くことで、他者と自分の働く意味をそれぞれ受け入れてみる。働くことには、多様な価値感の中、人それぞれであることに気づく。

◎教員としての大切な価値観
- 働く意味は、人それぞれ多様である。
- 今見つからない人は、見つからない今を受け止め、探す意識をもつこと。
- 他人と違うことは、有意性がある。

４．ワーク「なぜ働くの？」の流れ　（９０分バージョン）

1　導　入（５分）　ワークの説明

2　展開（８０分）　ＣＡＳＥを読んで

3　まとめ（５分）　振り返り

1 導　入（５分）

2 展開（８０分）
ＣＡＳＥを読んで
セルフワーク
CASE1 を読んで振り返りシートに記入（１０分）
↓
チーム学習
チーム内発表（１２分）

セルフワーク
CASE２を読んで振り返りシートに記入（１３分）
↓
チーム学習
チーム内発表（１２分）

セルフワーク
CASE３を読んでシートに記入（8分）
↓
チーム学習
チーム内発表（２０分）

3 まとめ（５分）

４．授業の展開　（９０分）

1 導　入（5分）

2 展　開（８０分）
ＣＡＳＥを読んで
セルフワーク

CASE1 を読んで
振り返りシートに
記入（１０分）

↓

チーム学習
チーム内発表
（１２分）

↓

セルフワーク

CASE２を読んで
振り返りシートに
記入（１３分）

↓

学習内容および手順	教員の発問および留意点	形 態
1 導入（５分） 本時の授業内容の概要を説明	1.「第５節『なぜ働くの？』は、Ｙさんと Ｓ君２つのケースから、それぞれの働く意味や価値感を考え、話し合いをします。そして、後半は自分にとっての働く理由や思いを考えてみます。話し合う時間では、その場の雰囲気を大切に皆さん参加しましょう。」	講義
2 ＣＡＳＥを読んで １．ＣＡＳＥ１　Ｙさんのお話から P.19-20 ケースを読み、振り返りシートに記入 説明とセルフワーク（１０分）	1.「それでは始めに、１９ページのＹさんの話を各自読んでみましょう。そして、読み終わりましたら、２０ページの『Ｙさんのお話から～振り返りシート』に記入します。 『Ｙさんが働き始めて壁にぶつかった理由』 『再び福祉の道に戻った時の気づき』 『Ｙさんにとっての“働く意味”』 を考えながら読んでみましょう。 10 分程度の時間をとります。それでは始めましょう。」 ＊巡回をして進捗状況を見る。時間は数分前後させて構わない。 ＊ペンが止まっている人には、近くによって、「今どんな感じですか？」「私がアドバイスできることありますか？」などと声をかける。	セルフワーク
２．振り返りシートに記入した内容をメンバーに発表する （12分）	2.「４～５人でチームを作ります。Ｙさんのケースについて振り返った内容をメンバーに話してみましょう。１人２分程度です。順番は話をしたい人から、『それでは私が』と言って話をしてください。 時間は自分で管理しましょう。話をしている間は、他の方は優しく注目して静かに聴きましょう。 終われば、他の人へとすすめてください。」 「チームによっては、早く終わったりするかもしれませんが、他のチームが終わるまではもう一度メンバー内でお話をしていてください。 ２０ページ下段に、メンバーの意見を聞いて、気づいたことを書いておきましょう。」 ＊チーム間の進捗状況を巡回しながら確認すること。場合によっては、短縮延長を行い、状況をみて、気づきの記入を進めて、時間内に終わるように助言する。	チーム学習
３．ＣＡＳＥ２　Ｓ君のお話から P.22 ケースを読み、振り返りシートに記入 説明とセルフワーク（13分） ①Ｓ君は就職条件にどんなことを優先していたか？また、それがどのように変化していったか？	3.「次に、２１ページのＳ君の話を各自読んでみましょう。そして、読み終わりましたら、２２ページの『Ｓ君のお話から～振り返りシート』に記入します。Ｓ君は就職の条件にどんなことを優先していたか、また、それがどのように変化していったか、を各自書いてください。 ８分程度の時間をとります。それでは始めましょう。」 ＊巡回をして進捗状況を見る。時間は数分前後させて構わない。 ＊ペンが止まっている人には、近くによって、「今どんな感じですか？」「私がアドバイスできることありますか？」などと声をかける。	セルフワーク

	②自分は仕事の価値をどのようなところに置くか？５つの優先順位をつけてみる。	「次に２２ページ中段に、あなた自身の仕事の価値はどのようなところに置いているか、５つ書き出してみましょう。そして、その５つに１番から５番の優先順位をつけてみましょう。 『仕事の価値』とは自分が仕事をする上で大切にしたいことや、これだけは譲れない条件・こだわり等のことです。５つすべて出ない人はそれでも構いません。 ５分程度の時間をとります。それでは始めましょう。」	
チーム学習 チーム内発表 （１２分）	４．振り返りシートに記入した内容をメンバーに発表する （１２分）	４．「先ほどのメンバーとは違うチームを作ります。４～５人でチームを作ってください。 発表時間は１人２分程度です。順番は話をしたい人からどうぞ。終われば、他の人へとすすめてください。 チームによっては、早く終わったりするかもしれませんが、他のチームが終わるまではもう一度メンバー内で話し合いをし、２２ページ下段のメンバーの意見を聞いて、気づいたことを書いておきましょう。」 ＊チーム間の進捗状況を巡回しながら確認すること。場合によっては、短縮延長を行い、状況をみて、気づきの記入を進めて、時間内に終わるように助言する。	チーム学習
セルフワーク CASE３を読んでシートに記入 （８分）	５．ＣＡＳＥ３　なぜ働くの？ P.23 ①「私はなぜ働くのか？」について自分の思いを書き出す （①と②で８分） ②メンバーに話ができるよう文章にまとめる	５．「次に２３ページの①「私はなぜ働くのか」について、自分の思いを考えてみましょう。文章でも単語でも思いつくまま書き留めてください。」 「①で書き留めた内容を、メンバーに話ができるように文章にまとめ、②の欄へ書きましょう。 ８分程度の時間をとります。それでは始めましょう。」 ＊巡回をして進捗状況を見る。時間は数分前後させて構わない。 「チームを作ります。今度はできるだけ沢山の人の話を聴くため６～８人のメンバーで作ります。」 ＊できるだけ沢山の人の話を聴くため、これまでのチームメンバーより多くの人数でチームを作らせる。ただし、時間と雰囲気によっては、4名程度でも構わない。	セルフワーク
チーム学習 チーム内発表 （20分）	６．振り返りシートに記入した内容をメンバーに発表する （２０分）	６．「『私が働く意味』や『なぜ働くのか』についてメンバーにお話をしていただきます。１人２分程度です。時間は自分で管理しましょう。話をしている間は、他の人は優しく注目して静かに聴きましょう、否定したり非難することは遠慮しましょう。 一人ひとり異なる働く理由があるものです。統一見解や結論は出す必要はありません。他人がどこに価値をおいているかを受け止めて聴きましょう。 終われば、他の人へとすすめてください。 本来は、話の中身をメモすることは控えますが、誰が言ったかを特定せず、いいなと思った言葉は、自分のこれからの成長のためにのみ書き留めておきましょう。 チームによっては、早く終わったりするかもしれませんが、他のチームが終わるまではもう一度メンバー内で話をしていてください。」 ＊チーム間の進捗状況を巡回しながら確認すること。場合によっては、短縮延長を行い、状況をみて、気づきの記入を進めて、時間内に終わるように助言する。	チーム学習

3 まとめ（5分）

3 まとめ（５分） 第５節を振り返り １．セルフワークやチームの話し合いを通じて得た感想や気づきの発表 ２．セルフワーク中の記入の様子やチームの話し合いの様子から留意事項を提案として伝える。	１．「今日のセルフワークとチームでの話し合いを通じて、それぞれが感じたこと、気づいたことなどがあったと思います。クラス全体にお話ししてもいいなぁと思う人は、どなたか聞かせてもらえませんか。」 ＊指名をせずに発表してもらいたい旨を伝えて、挙手した人の発表を期待する。 ＊教員自身が『私の働く意味』について語ってもよい。 例） 「今日はなかなか記入できなかった人もいるでしょう。今日は書けなかったという事実として、また気になったときに書けばいいでしょう。」 「チームでの話し合いでは、今日の内容はどれもその人にとっては正解です。『いまは話せないということもあるんだ。』と受け入れましょう。」 「今日使ったワークシートの右上に日付を記入し、リングファイルに綴じて終わります。」	

文部科学省
平成 23 年度教育研修活動補助事業

「専修学校におけるキャリア教育技法に関する調査研究」報告書

平成 24 年 3 月

発行　財団法人専修学校教育振興会
〒102-0073　東京都千代田区九段北 4-2-25
（私学会館別館）
電話 03(3230)4814